日・米・中にみるいじめと家族の絆の国際比較 ：大学生を対象にした2次調査

著者名(日)	植木 武，石橋 義永，吉野 諒三，トークゥオーティ ジュリア，タマシロ ロイ，エドモンドソン ロバート，張 正軍
雑誌名	共立女子大学・共立女子短期大学総合文化研究所紀要
巻	22
ページ	15-46,(1)-(7)
発行年	2016-02
URL	http://id.nii.ac.jp/1087/00003079/

Creative Commons : 表示 - 非営利 - 改変禁止
http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/deed.ja

共立女子大学・共立女子短期大学　総合文化研究所紀要　第22号　2016年

日・米・中にみるいじめと家族の絆の国際比較
—大学生を対象にした2次調査—

植木　武　　石橋義永　　吉野諒三
J. Torquati　　R. Tamashiro　　R. Edmondson　　張　正軍

Ⅰ　はじめに

前回（1次調査 2008.10～2009.5）は，日本とアメリカとの「家族の絆」と「いじめ問題」の比較調査であった（植木他 2010，2011:101－40)。今回も同様のふたつのテーマの調査であったが，2ヵ国に加えて中国を入れることになった。そこで，2次調査は，3ヵ国語のアンケート用紙を作製し，それぞれの国で，2012年3月より調査を開始し，2013年5月までかかり，アンケートを回収した。

今回の2次調査も，1次調査と同じくSPSSを用いて集計・解析を行ったが，1次調査では割愛させてもらった自由書きの集計を，今回は行った。2次調査の「自由書き」は，先に発表（植木他 2014：212－5）させてもらったが，その際に書き切れなかった分を本稿で補足している。自由書きゆえに，翻訳作業が含まれた。ところが，英語はなんとか読めたが中国語が読めず，中国人学生と日本人学生とをペアにして日本語に訳してもらい，それらをもとに分析した。訓練を受けていない学生に翻訳作業をさせた問題は残るが，とにかくも，日本語に訳された自由書きをひとつひとつの「意見」に分離して，それらを集計することにした。この3ヵ国語の自由書きを「意見」ごとに分離・集計するのに，植木と助手で計250時間掛かっている（植木他 2014：212－5)。

2次調査に中国を加えた理由は，ある日系中国人の方から，「中国ではいじめが無い」と聞いたからである。そこで，日本の大学で教鞭を執る中国人教授に聞くと，「もし無いならば，それは教師の権威が強すぎていじめが起こらないのだろう」と聞いた。そこで，是非とも中国のサンプルをとりたいと希望したからである。

以上のような理由で，本調査はすべての分析が完了した訳ではなく，そこで拙稿は，最終報告書ではなく，途中経過の研究ノートと理解して欲しい。

Ⅱ　調査概要

1次調査と同様に，今回の2次調査の被験者は，すべて大学生であった。日本は，5大学（札幌市立大学・共立女子大学・明治大学・同志社大学・香蘭女子短期大学)，アメリカは3大学（ウエブスター大学・ネブラスカ大学・ハワイ大学)，中国は6大学（A～F大学）であった。中国の大学は，匿名を条件に調査へ協力してもらった経緯があり，大学名を明らかにすることはできない。1次調査との相違は，日本の大学が1つ，アメリカの大学が2つドロップアウトし，中国の6大学

表1　アンケートの配布と回収について

	日本	アメリカ	中国	計
アンケート配布数	約1,000	約600	約600	約2,200
回収数［女］	674	193	369	1,236
回収数［男］	159	86	83	328
性別無記入	18	1	6	25
計	851	280	458	1,589

が追加されたことである。

アンケートの配布数と回収数は，表1のごとくであるが，男子学生数の少なかったことが，1次調査と同様に気にかかった点である。1次調査に比べ，アメリカでの回収数が大幅に減少した点も気にかかっている。

今回の2次調査アンケートの質問項目は，不必要と思われた数個の質問項目を削除し，必要と思われた数個の項目を追加したが，それら以外は，基本的には1次調査と同じものである。2次調査のアンケート用紙は，質問1～18までが，いじめた（Ⅰ）・いじめられた（Ⅱ）に関する項目で，そのうち質問10と質問18は自由書きである。すべて1次調査のアンケート質問項目と同じであるが，質問7（なぜ，死にたく思ったか）は，新しい項目として追加した。

今回のアンケートの質問19～27までは，家族の絆（Ⅲ）に関する質問であるが，以下の2点のみが，1次調査のアンケートと相違する。1次調査の質問項目には，両親との同居に関する質問が4つあったが，誤解・混乱を避けるため，ひとつを残して3質問を削除した。もうひとつの相違は，今回のアンケート調査のために追加した質問27である。

質問27は，新たな仮説のもとに，追加された非常に重要な質問項目である。1次調査の最終報告の「将来の課題」の中で，このような国際比較調査，つまり異文化比較研究では，アンケートの「家族の絆」に係わる質問に対し，われわれは，文化により相違する「建て前」と「本音」を，被験者は無意識のうちに使い分けているのではなかろうかという疑念を抱いた。1次調査の仮説検定の結果（アメリカの家族の絆は，日本のそれよりも強い）を基にして，われわれは，文化により，時代により，「家族の絆」に関する強調に濃淡があるのではないかという疑念を持ったのである（植木・山森・石橋・吉野他 2011：124，5）。そこで，この疑念を検証したく思い追加したのが，今回の質問27である。新理論と思ってもらって構わないのだが，異文化比較研究をする際は，文化により濃淡の差が出る「建て前」と「本音」の差とか，その文化が時代の要請から特に強調するかしないかという文化価値の濃淡から出てくる差は，どうしても存在するであろうと考えた。そこで，もし，そうであるならば，別の基準で，その検証もしなければならないと考えたのである。私どもの場合は「人間行動」というもので，クロス－チェック（cross-check）されなければならない，という新理論をもって，追加したのがこの質問27である。ただ，大変に残念なことに，新理論のために追加された質問27であるが，現時点において分析が未完ゆえに，本稿では発表できない。

質問28から32までは，被験者自身の特性と自己分析（Ⅳ）に関する新項目である。今回は，国

籍・民族的背景・自身の性格等を聞いてみた。以上のごとく，２次調査のアンケート用紙は，４グループ（Ⅰ～Ⅳ）に分割される。

１次調査では発表（植木他 2010，2011）したが，２次調査の本稿では，現段階で発表できない分析が，もうひとつある。どのようなカテゴリーが，国籍別，性別に影響を与えるかを判別する多重コレスポンデンス分析がまだ終了しておらず，その報告は，残念ながら同じく先送りとなった。

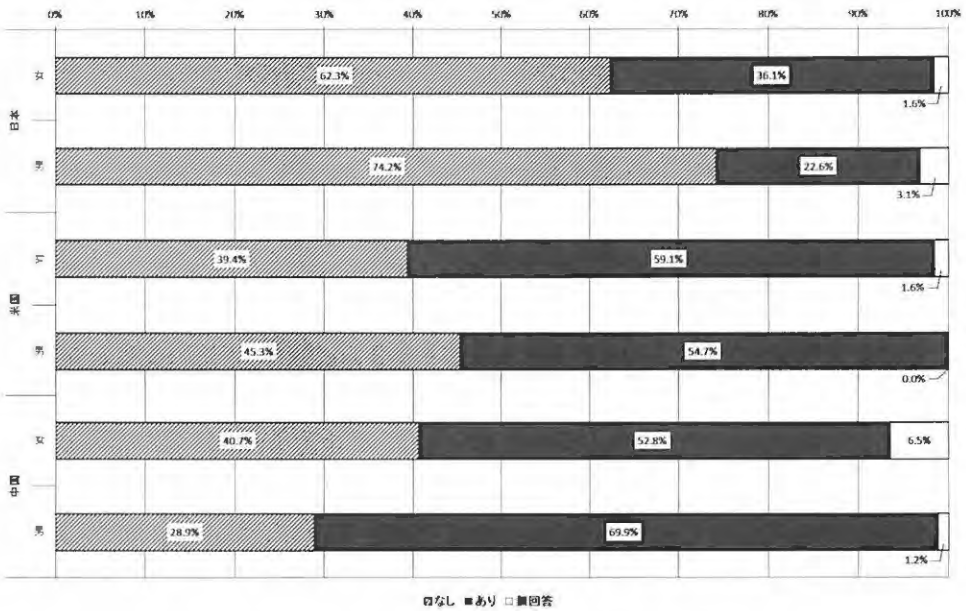
Ⅲ　調査結果

今回の２次調査の前半はいじめ問題であるが，いじめ問題は前半（Ⅰ）の「いじめられた経験」と，後半（Ⅱ）の「いじめた経験」に分けられる。

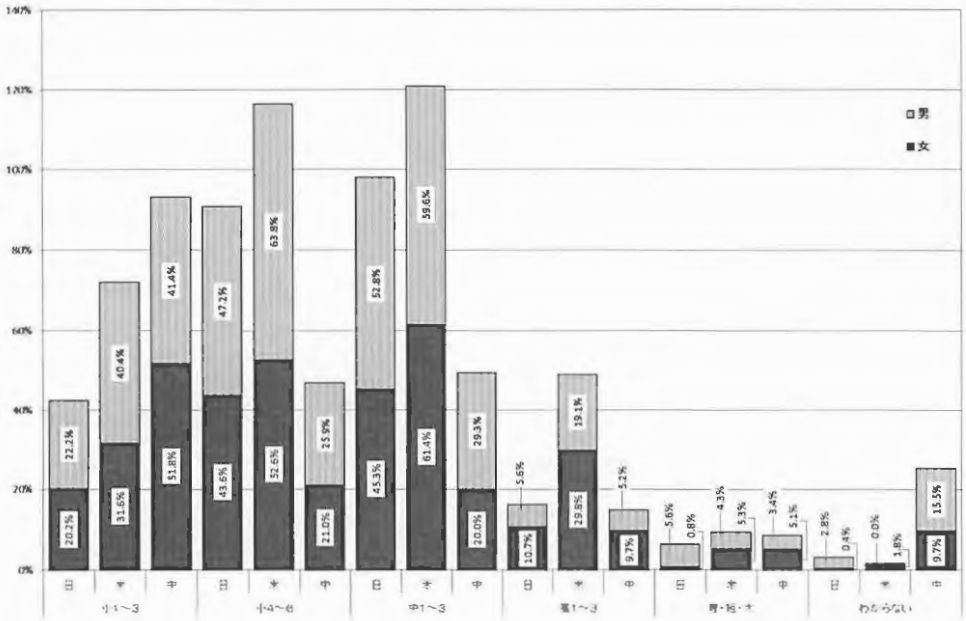
図１（Ⅰ 問1a）は，「いじめられたことがありますか」と聞いた結果である。日本・米国・中国を男女に分け６グループにすると，無回答がグループ別に0.0～6.5％まであったが，性別よりか国による差が顕著に見られた。日本はいじめられた経験が男女ともに少なかったが，米国と中国は男女とも過半を超えている。つまり，中国にもいじめはしっかりと存在することが解った。死までに至る日本のいじめと，死とは直結しない米国や中国とでは，いじめの質に大きな差がある。

図２（Ⅰ 問1b）は，いじめられた経験のある大学生たちに，いつ頃いじめられたかを複数回答有りで聞いた結果である。これも性別よりか国別に差が見られたが，日本と米国は小４～６と中１～３が多く，一方，中国は小１～３が多かったが，それ以外は少なかった。高校時代になると，米国は少し多いが，日・中ともに少ない。ひとつ気に掛かるのは，中国は小学低学年にいじめが最大となったが，これは，日・米で考えるいじめよりか，もしかすると，からかいやふざけ等が多く混

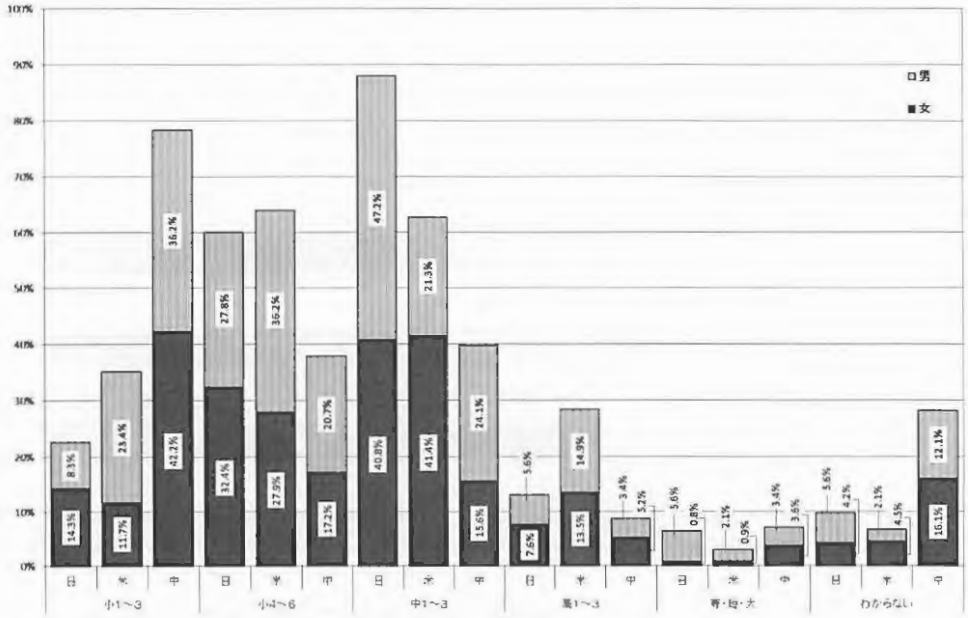
〔図１〕Ⅰ 問1a．いじめられたことがあるか



〔図 2〕Ⅰ 問1b. いじめられた時期（複数回答）

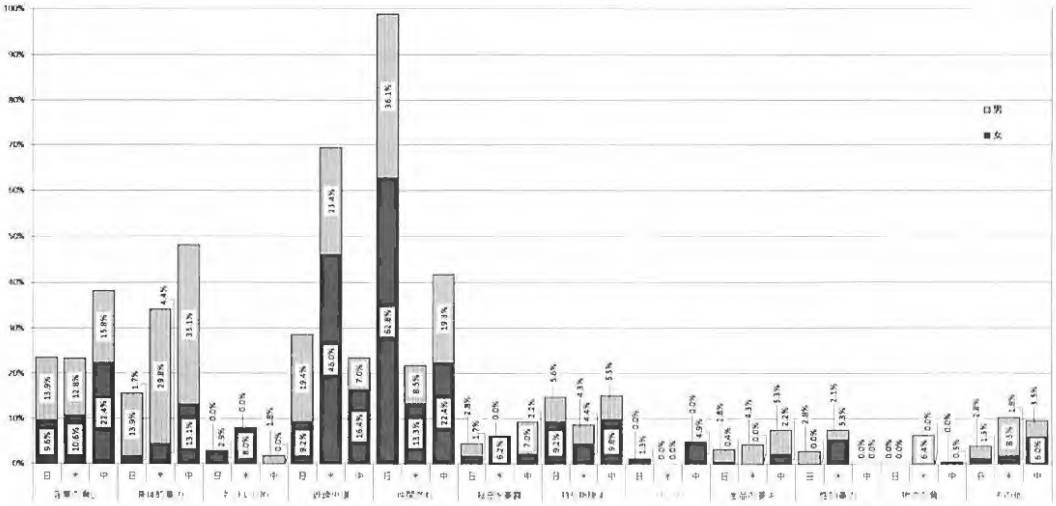


〔図 3〕Ⅰ 問2. 一番ひどいいじめの時期



じっているのかも知れないと思える点である。この懸念は，自由書きのところで中国人学生が，小学生の頃にいじめられたと書いた例に，日本人学生だったらからかいやいたずらと無視するような単発で軽いものが，いくつか含まれていたために，われわれが感じた懸念でもある。

〔図 4〕Ⅰ 問3. 最悪のいじめの種類



〔図 5〕Ⅰ 問4. 誰によってか

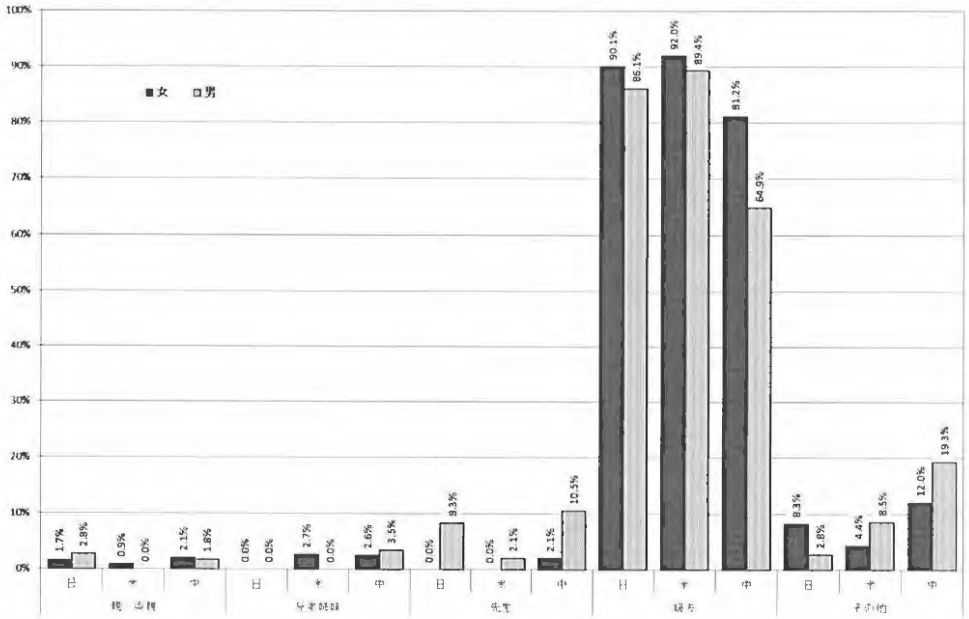


図3（Ⅰ 問2）は，いじめられた経験の中で，「一番ひどいいじめを受けた」時期をひとつだけ聞いた結果である。最悪のいじめは，日本では中学生時代で，米国では小学校上級生と中学時代が同じぐらい多く，中国では小学校下級生のときであった。中国の小学校下級生というのは，からかいやふざけが混じっていることを想定させる。

図4（Ⅰ 問3）は，最悪のいじめの時，「どのようないじめ」であったかを聞いた結果である。

図が煩雑になるため，その他（1.3 ～ 8.5%）で少数例を括らせてもらった。日本は男女の差もあったが，「仲間外れ」「誹謗中傷」「言葉の脅し」の順であったが，米国も男女の差は大きかったが，日本と少し似て「誹謗中傷」「身体的暴行」「言葉の脅し」「仲間外れ」であった。中国も男女差はあったが，「身体的暴力」「仲間はずれ」「言葉の脅し」であった。ここで注目を引くのは，米国と中国に「身体的暴行」が多く，日本は少ないという点である。米国の「身体的暴行」は想像つくが，中国の小学下級生の「身体的暴行」は，乱暴な男子生徒が突然に女の子の頭をぶったり押したりするようないじめで，私共が想定する陰湿で継続的な「身体的暴行」とは，かなり相違するのではないだろうか。

頻度は高くないが，「ネット上でのいじめ」は米国女子に多く，日本女子にも少しいた。「秘密を暴露」するのは中国男子と米国女子に多かった。「持ち物を隠す」は，日本と中国の男女ともに多かったが，米国の男女はともに少なかった。「パシリをさせられる」のは，中国女子に少しあり，日本女子にはほんのわずかであったが見られた。「金品の要求」は，中国男子と米国男子に多く，日本男子は少なかった。「性的暴力」は，米国女子と日本男子に少し見られた。「物での脅し」は，米国男子に見られた。

図５（Ⅰ 問4）は，「誰によって最悪のいじめを受け」たかであるが，「級友」が圧倒的に多い。それ以外は少数であったが，両親と答えたのは日本と中国にわずかではあるがあった。兄弟姉妹と回答したのは中国男女と米国女子であり，先生と答えたのは中国男女と日本男子で，わずかではあるがあった。

図６（Ⅰ 問5）は，自分に対し「最悪のいじめをした人」のジェンダーを聞いた。圧倒的に同性からのいじめが多かったが，異性からというのは，中国女子と米国女子に少々あった。両方というのは，最悪のいじめをしてきたのがグループの場合は，男女が混じることがあるからであろう。

〔図 6〕Ⅰ 問5．いじめられた相手の性別

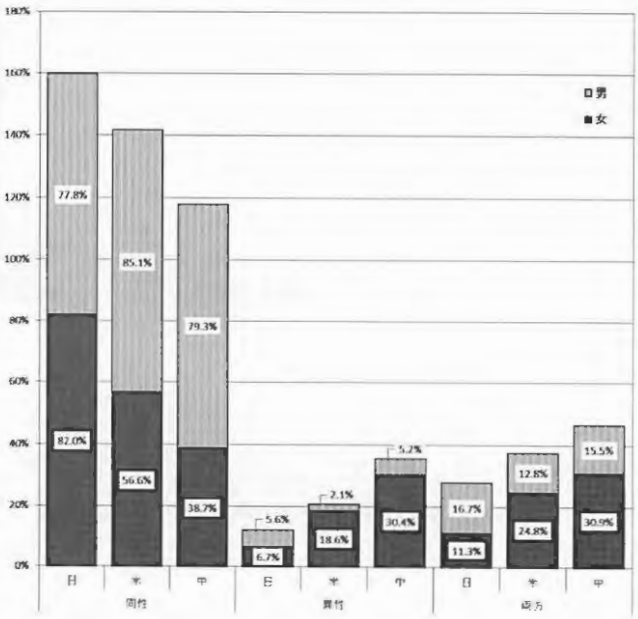
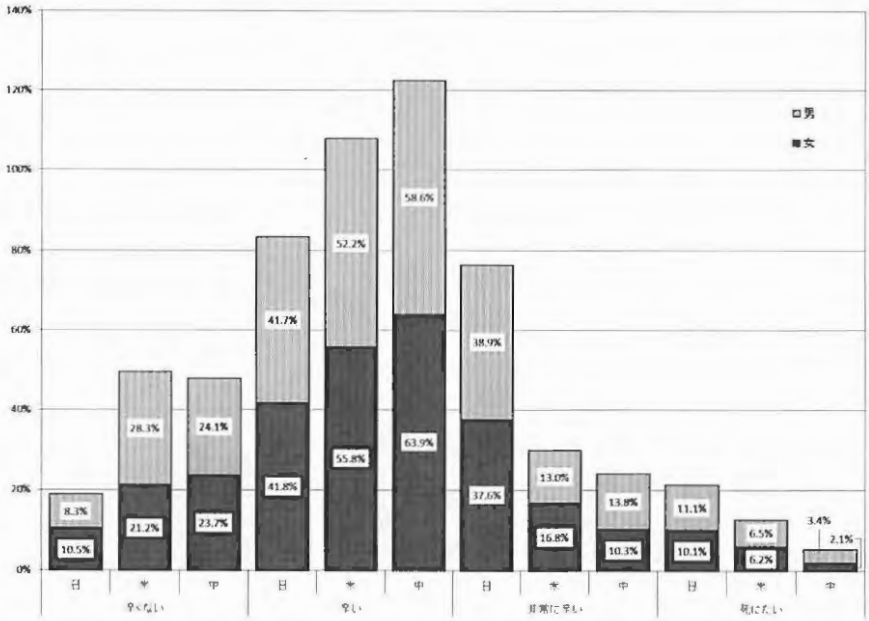


図７（Ⅰ 問6）は，「一番ひどいいじめを受けたとき，あなたはどう思ったか」を聞いた。回答は４択よりひとつのみの選択である。３ヵ国とも「辛い」が最多であったが，日本は他国に比べて「非常に辛い」がかなり多かった。更に，「死にたく思った」も，日本が最多であった。これは，日本人のいじめが他国のいじめより質的・量的に劣悪なものな

〔図 7〕Ⅰ 問6. どう思ったか



のか，あるいは，日本人の若者が，他国の若者たちと比べて精神的に脆弱なのか等の，考察を必要とされよう。

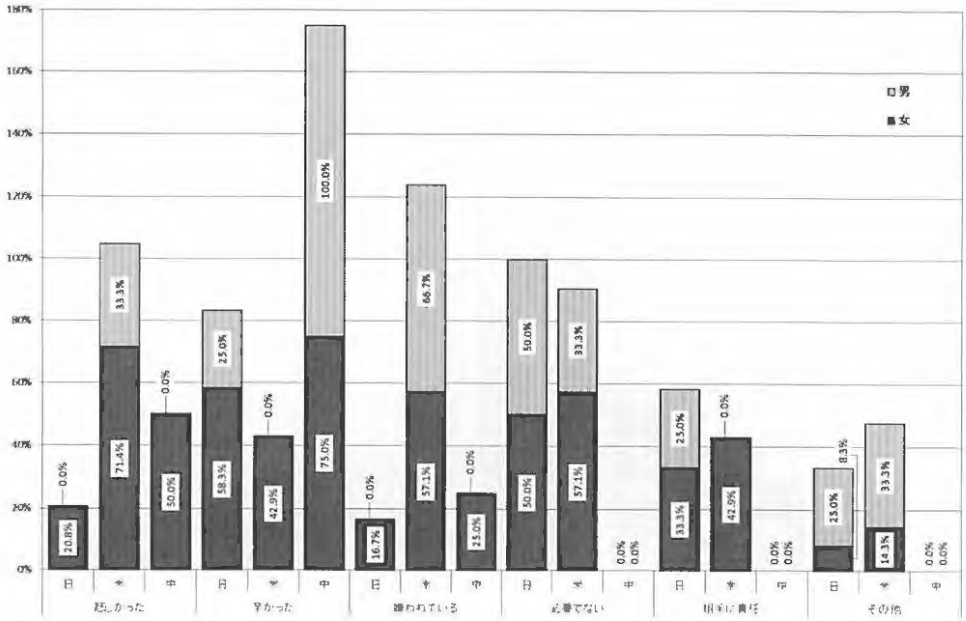
図8（Ⅰ 問7）は，今回の2次調査で新たに加えた質問項目で，前問で「死にたく思った」と回答した方のみに回答してもらった結果である。「そのいじめを受けたとき，なぜ，死にたく思ったのですか」と聞いた。複数回答を可能としたので，割合いがマチマチとなってしまったが，この図で解説する。日本男子には自分が「必要ではない」と思った理由が最も多く，次に非常に「辛かった」，次に「自分が死ねば相手の責任」という復讐心もあった。日本女子に限っては，「辛かった」「嫌われている」「必要ではない」が多く，「相手の責任」も少しあった。米国女子に限るが，「悲しかった」「嫌われている」「必要でない」が多かった。中国男女は，「辛かった」からという回答が最多で，中国女子に限ると「悲しかった」「嫌われている」と思ったから，の回答があった。

「死にたい」と思ったのは，日本は1割，米国は6%，中国は2～3%で，日本は多く，アメリカも少し多かったと思える。なにしろ「死」という問題なので，軽んじてはならない重要なポイントである。

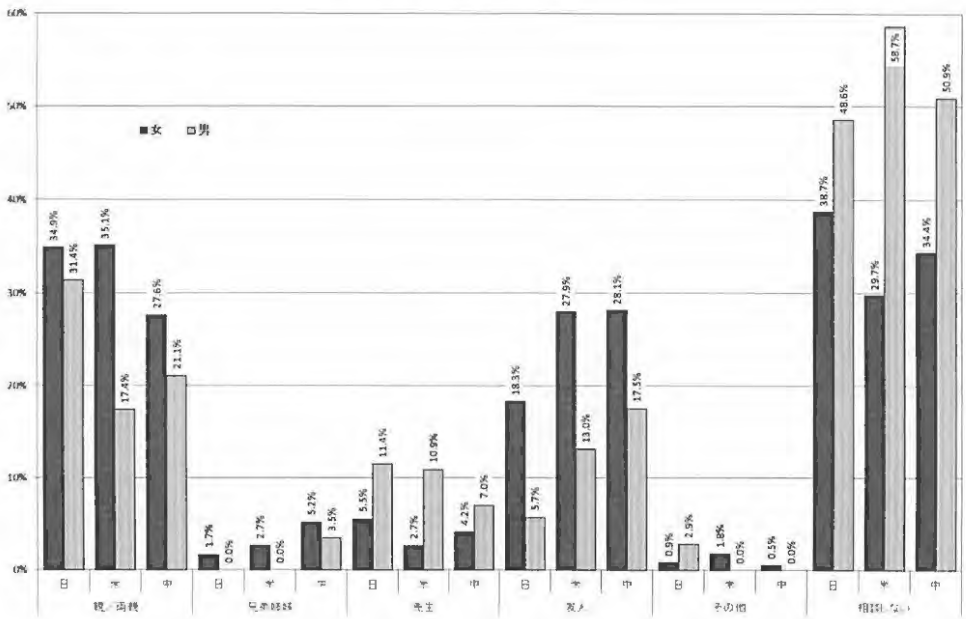
図9（Ⅰ 問8）は，最悪のいじめを受けた際に，「最初に誰に相談しましたか」と聞いた。3ヵ国とも「相談しない」が最多であった。相談した中では，「親／両親」が3ヵ国とも，男女とも，最多であった。次が「友人」「先生」と続く。少し驚いたのは，「兄弟姉妹」が非常に少ないということであった。ひとつ興味がひかれたのは，「友人」に相談するという回答が，3ヵ国とも女子が男子に比べてずっと多く，「先生」に相談するは，3ヵ国とも男子が女子よりずっと多い点であった。

図10（Ⅰ 問9）は，あなたといじめた人（グループ）とのその後の「関係はどう」なったかを聞いた。日本男女の「和解した」が多いのは，中間に教員が入って和解させるケースが高いからで

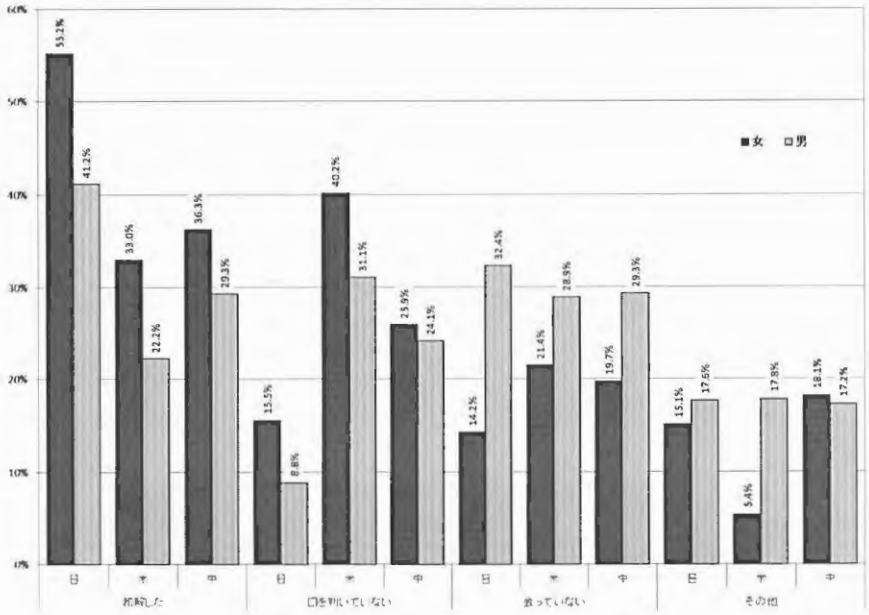
〔図 8〕Ⅰ 問7. なぜ死にたく思ったか



〔図 9〕Ⅰ 問8. 誰に相談したか



〔図10〕Ⅰ 問9. その後の相手との関係



あろうか。「口を利いていない」と答えたのは米国男女に多いのと，逆に日本男女に少ないのは，対照的となっているが，この理由はそれぞれの国の学校状況に影響されているのではなかろうか。日本の学校は簡単に学校を変更することは難しいが，米国は比較的簡単に学校を移ることができる。同じ学校にいれば，どうしても口を利かざるを得ないし，学校を変われば話すこともない，という状況と関係があるのではなかろうか。

図11a（Ⅰ 問10）は，「あなたは，なぜいじめられたのですか」という質問に対する自由書き回答を，回答者の割合いと，意見数とにまとめたものである。なお，意見とは，回答文を単語別にしたもので，例えば，「馬鹿で乱暴もの」ならば，2意見となる。

いじめられた経験の割合いが高かったアメリカと中国が，低かった日本より回答者数の割合が高かったことは，納得できる。3ヵ国を合併して性別で比較したところ，回答者の割合がほぼ同じ（男34%，女32%）に出たことは，偶然であったのではあるが，面白いと思った。

図11b（Ⅰ 問10）は，「なぜいじめられた」のかという質問に対する，いじめられた本人が自由書きスタイルで自己分析をした結果であり，大変に興味深いものがある。自由書きを，国別と性別とを基準に細かくひとつひとつの「意見」に細分し，その後に，「自分が原因」「相手が原因」「それ以外の原因」と3大区分した。次に，類似する「意見」をまとめ，それぞれの区分（3大区分）のそれぞれの原因・理由（A－1～5，B－1～4，C－1～7計16）の中に，集約させた。

「自分が原因」の中では，3ヵ国を比較すると「弱い性格」が男女ともに最多であるのだが，日本の女性だけに限っては，「態度」の次になっている。アメリカに限っては，男女ともに「外見」に数が多く集まった。「相手が原因」では，「嫉妬」が日本女性とアメリカ女性に最多になったが，

［図 11a］ Ⅰ 問10. なぜ，いじめられたかの回答数と意見数（自由書き回答）

		回答者数の割合	いじめられた 意見数
日本	男	27/159＝17%	41
	女	150/675＝22%	223
	無記入	2/18＝11%	3
	合 計	179/852＝21%	267

		回答者数の割合	いじめられた 意見数
アメリカ	男	44/86＝51%	112
	女	101/193＝52%	229
	無記入	1/1＝100%	3
	合 計	146/280＝52%	344

		回答者数の割合	いじめられた 意見数
中国	男	39/83＝47%	60
	女	151/369＝41%	267
	無記入	4/6＝67%	10
	合 計	194/458＝42%	337

		回答者数の割合	いじめられた 意見数
日・米・中	男	110/328＝34%	213
	女	402/1237＝32%	719
	無記入	7/25＝28%	16
	合 計	519/1590＝33%	948

［図 11b］ I 問10. なぜ，いじめられたのか意見分類（自由書き回答）

日本		意見	割合
自分が原因	A-1 態度	女 49 男 5 無記入 1	55/134=41%
	A-2 弱い性格	女 38 男 13	51/134=38%
	A-3 外見	女 8 男 6	14/134=10%
	A-4 性格の不一致	女 7 男 2 無記入 1	10/134=7%
	A-5 友人をかばった	女 4 男 0	4/134=3%
相手が原因	B-1 嫉妬	女 14 男 1 無記入 1	16/44=36%
	B-2 嫌う・バカ・ムカつく	女 9 男 5	14/44=32%
	B-3 勘違い・誤解	女 9 男 0	9/44=20%
	B-4 からかい	女 4 男 1	5/44=11%
それ以外の原因	C-1 状況・環境	女 23 男 0	23/89=25%
	C-2 順番	女 19 男 3	22/89=25%
	C-3 異性問題	女 5 男 0	5/89=6%
	C-4 異性・同性ステリオタイプ感	女 0 男 0	0/89=0%
	C-5 性的趣向	女 0 男 0	0/89=0%
	C-6 宗教	女 0 男 0	0/89=0%
	C-7 その他・DK	女 34 男 5	39/89=44%

（総意見数　267）

アメリカ		意 見	割合
自分が原因	A-1 態度	女 21 男 14	35/218=16%
	A-2 弱い性格	女 72 男 31	103/218=47%
	A-3 外見	女 44 男 31 無記入 3	78/218=36%
	A-4 性格の不一致	女 0 男 0	0/218=0%
	A-5 友人をかばった	女 2 男 0	2/218=1%
相手が原因	B-1 嫉妬	女 22 男 5	27/55=49%
	B-2 優越性・怒り・嫌う・報復	女 12 男 7	19/55=35%
	B-3 意見の相違	女 1 男 0	1/55=2%
	B-4 遊び・からかい	女 4 男 4	8/55=15%
それ以外の原因	C-1 状況・環境	女 28 男 10	38/71=54%
	C-2 順番	女 0 男 0	0/71=0%
	C-3 異性問題	女 3 男 0	3/71=4%
	C-4 異性・同性ステリオタイプ感	女 6 男 0	6/71=8%
	C-5 性的趣向	女 1 男 3	4/71=6%
	C-6 宗教	女 0 男 2	2/71=3%
	C-7 その他・DK	女 13 男 5	18/71=25%

（総意見数 344）

中 国		意 見	割合
自分が原因	A-1 態度	女 32 男 6	38/153=25%
	A-2 弱い性格	女 63 男 16 無記入 1	80/153=52%
	A-3 外見	女 9 男 5 無記入 1	15/153=10%
	A-4 性格の不一致	女 18 男 2	20/153=13%
	A-5 友人をかばった	女 0 男 0	0/153=0%
相手が原因	B-1 嫉妬	女 17 男 2	19/98=19%
	B-2 嫌う・教育・バカ・性格	女 44 男 7	51/98=52%
	B-3 コミュ不足・誤解	女 10 男 1	11/98=11%
	B-4 遊び・いたずら	女 12 男 5	17/98=17%
それ以外の原因	C-1 状況・環境	女 27 男 3 無記入 2	32/86=37%
	C-2 順番	女 0 男 6	6/86=7%
	C-3 異性問題	女 2 男 0	2/86=2%
	C-4 異性・同性ステリオタイプ感	女 10 男 0 無記入 3	13/86=15%
	C-5 性的趣向	女 0 男 0	0/86=0%
	C-6 宗教	女 0 男 0	0/86=0%
	C-7 その他・DK	女 23 男 7 無記入 3	33/86=38%

（総意見数 337）

中国女性では，ひと括りにした「嫌う・教育・バカ・性格」が最多に出た。「からかい・遊び」が，3ヵ国ともそこそこに多かったことは，予測できた。「それ以外の原因」では，3ヵ国とも，特に女性はそうであったのだが，「状況・環境」が最多になった。ひとつ気に掛かったのは，日本の女性・男性と，中国の男性に，順番にいじめられるという「順番」が多かったことである。男は乱暴であるというような「異性・同性ステリオタイプ感」であるが，アメリカの女性と中国の女性に多く出たことは注目できる。

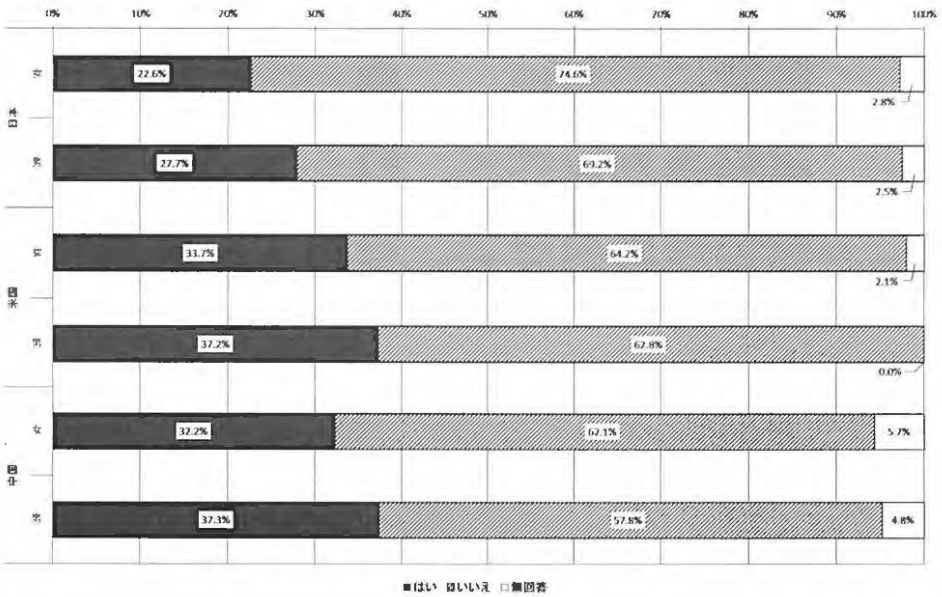
ここからいじめ問題の後半となる，「いじめた」経験を聞く。

図12（Ⅱ 問11）は，「他人をいじめたことがありますか」と聞いた。3ヵ国とも，男女とも，いじめた経験を持つ学生は多いのだが，特に中国男女と米国男女には多く，日本男女が少なかった。日本は，いじめ問題が大きな社会問題となっているわけで，それだけ学校では問題視しており，そのため数の上では少なくなっているのではなかろうか。日本に限って言えば，いじめた経験者の数が少ないからといって，言うまでもないことであるが問題が小さいとは決して言えない。自殺者が，これだけ続出しているのは日本だけであり，質的な面を考慮するならば，日本は3ヵ国中で最悪の状況を呈しているからだ。

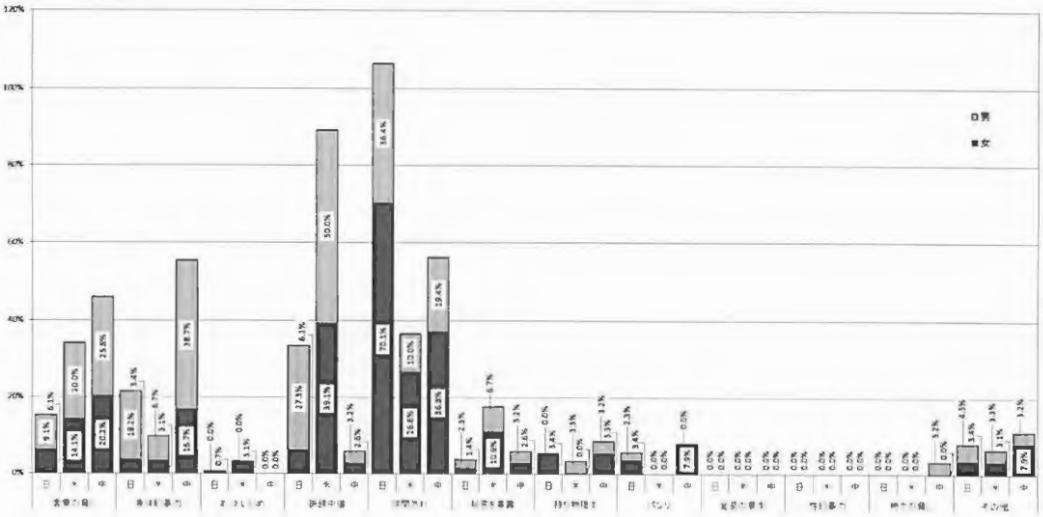
図13（Ⅱ 問12）は，「最もひどいいじめをしたとき，どんないじめを」したか，と聞いた。日本は「仲間外れ」「誹謗中傷」「身体的暴力」順に多く，米国は「誹謗中傷」「仲間外れ」「言葉の脅し」順に多く，中国は「仲間外れ」「身体的暴力」「言葉の脅し」が多かった。少し意外と思ったのは，日本男子の身体的暴力が少し多かったことと，米国の身体的暴力が少なかったことである。

図14（Ⅱ 問13）は，一番ひどいいじめをしたとき，「あなたがいつのことでしたか」と聞いた。

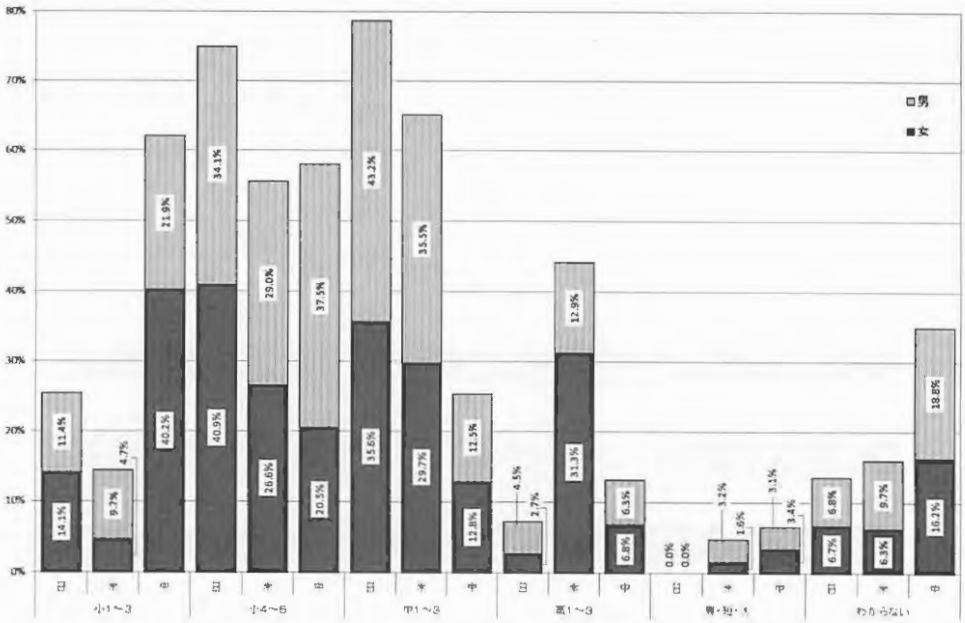
［図12］Ⅱ 問11．いじめたことがあるか



［図 13］Ⅱ 問12．最悪のいじめの種類



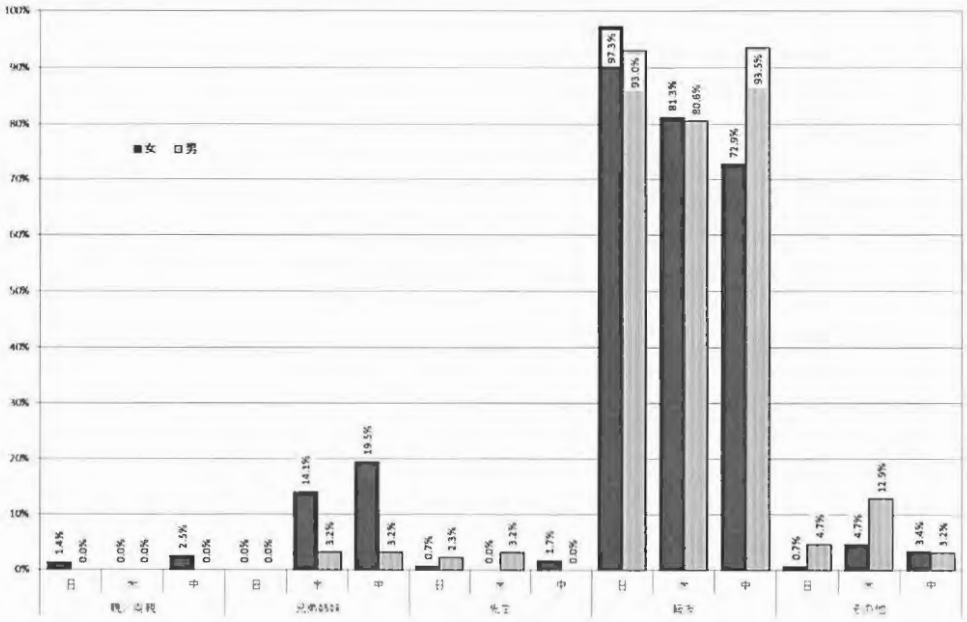
［図 14］Ⅱ 問13．一番ひどいいじめの時期



日本と米国は，中１～３と小４～６が一番多いのだが，米国女子に限っては，高１～３も多い。中国は，少し違って小１～３と小４～６が多く，中学と高校時代は男女ともに少なかった。

図 15（Ⅱ 問14）は，「誰をいじめましたか」と聞いた。圧倒的に「級友」が多く，「兄弟姉妹」が中国女子と米国女子に少しいた。中国の女子・男子が兄弟姉妹をいじめたというのは，どういうことか疑問が沸く。先生をいじめたというのは，日本と中国ともに少しあったが，アメリカに限っ

［図15］Ⅱ 問14．誰をいじめたか



ては，男女ともに0%であった。

図16（Ⅱ 問15）は，「一番ひどいいじめをした相手」の性別を聞いてみた。3ヵ国とも，男女とも，同性が多かったが，異性をいじめた中では中国女子が少し多かった。「両方」というのは米国と中国に少し多かったが，これは複数名をいじめた結果であろう。

［図16］Ⅱ 問15．相手の性別

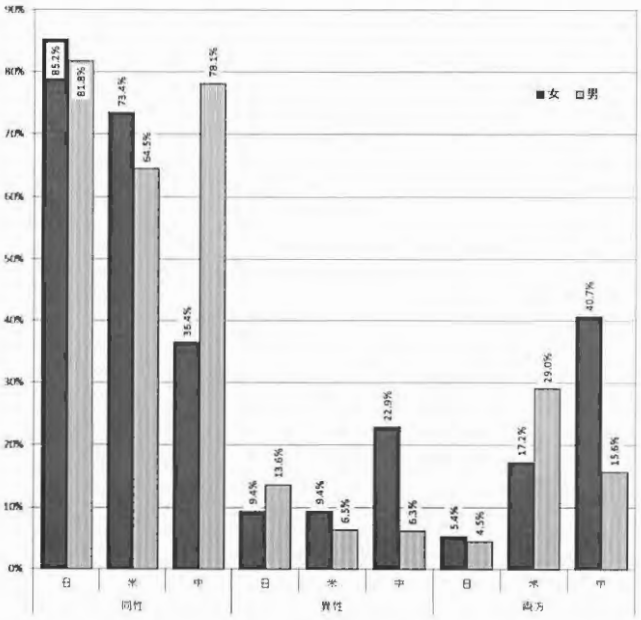
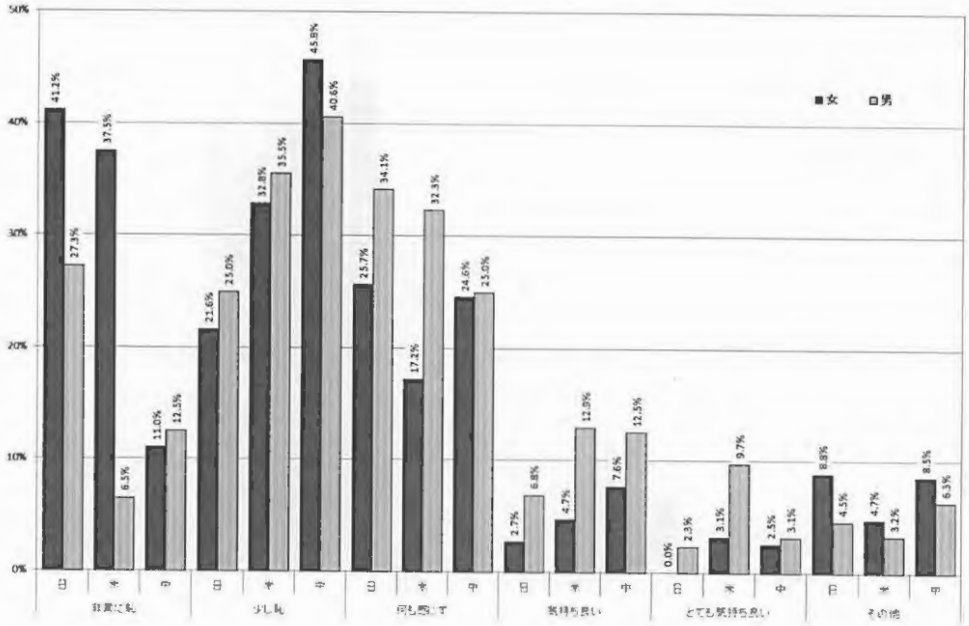


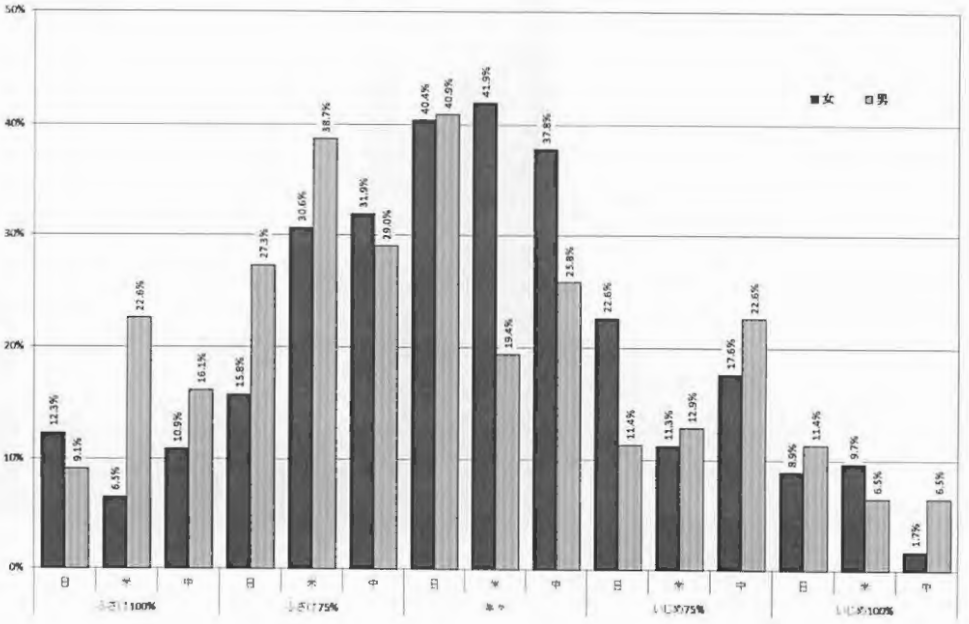
図17（Ⅱ 問16）は，「一番ひどいいじめをした後で，あなたはどう思いましたか」と聞いた。「非常に恥ずかしく思った」は，日本男女と米国女子に多かった。「少し恥ずかしく思った」は，中国男女と米国男女に多かった。「何も感じなかった」が，3ヵ国の男女にかなり多く，「気持ちは良かった」と「とても気持ちが良かった」が，少ないながらも，3ヵ国の男女にいたことは驚くべきことで，注目に価する。

図18（Ⅱ 問17）は，いじめをしたときに，いじめと自覚していたか，ふざけと思っていたか，

［図 17］Ⅱ 問16. どう思ったか



［図 18］Ⅱ 問17. 自分の気持ち



割合別に分けた5択の中から，ひとつを選択させた。3ヵ国とも，「半々」と「ふざけ75%」が多いが，「いじめ75%」と「いじめ100%」も少しあり，たとえ少しとはいえ，いじめの自覚をもっていじめていたことに，驚きを覚えた。

Ⅱ 19a（Ⅱ 問18）は，「あなたは，なぜいじめたのですか」という自由解答の質問に対する，回答者の割合いと，意見数である。なお，意見とは，前にも述べたが回答文を単語別にしたもので，例えば，「馬鹿で乱暴もの」ならば2意見となる。

性別無記入者を除外させてもらうと，3ヵ国の回答してくれた男女は最低が16%で，最高が34%であった。3ヵ国とも安定していて，平均は24%ぐらいである。

図19b（Ⅱ 問18）は，類似する「意見」をまとめていき，それを最後には，国別に，「自分が原因」「相手が原因」「その他」にまとめたものである。

「あなたは，なぜいじめたのですか」に対する自由回答を，まず，「自分が原因」からみると，ひとつに括った「報復・嫌い他」が，3ヵ国の男女とも最多であった。次に，「同調・流されて」が日本とアメリカの男女に多かったが，中国の男にはいなかった。次が，日本では「恐怖・リーダー怖い」であったが，アメリカと中国には，男女ともほとんどいなかった。次が，「からかい・面白い・冗談等」で，日本とアメリカに少しあったが，中国では沢山いた。「ねたみ・嫉妬」も，日本の女，アメリカの男女，中国の女に少しいた。次の「相手が原因」をみると，「自己中・イラつかせる・嫌な行動他」が，3ヵ国の男女ともに最多か最多に近く，「性格・ナイーブ・皆と違う他」が，同じく3ヵ国の男女に多かった。「外見」は，日本とアメリカの男女にそれなりに多かったのだが，中国では男女ともゼロであった。「性格の不一致」も，男子は3ヵ国とも非常に少ないかゼロであったが，女子は3ヵ国とも少しいた。最後の「それ以外の原因」をみると，「状況・環境」が3ヵ国とも多く，次は，日本では「異性問題」が多かったが，不思議なことに，アメリカと中国は非常に少ないかゼロであった。日本の女子に限っては，「順番」が少しいたことが注目できた。

［図19a］Ⅱ 問18．なぜ，いじめたかの回答者数と意見数（自由書き回答）

		回答者数の割合	いじめた 意見数
日本	男	37/159＝23%	45
	女	111/675＝16%	159
	無記入	1/18＝6%	1
	合 計	149/852＝17%	205

		回答者数の割合	いじめた 意見数
アメリカ	男	29/89＝34%	69
	女	57/193＝30%	92
	無記入	1/1＝100%	3
	合 計	87/280＝31%	164

		回答者数の割合	いじめた 意見数
中国	男	22/83＝27%	32
	女	89/369＝24%	148
	無記入	2/6＝33%	10
	合 計	113/458＝25%	190

		回答者数の割合	いじめた 意見数
日・米・中	男	88/328＝27%	146
	女	257/1237＝21%	399
	無記入	4/25＝16%	14
	合 計	349/1590＝22%	559

［図19b］Ⅱ 問18. なぜ，いじめたかの意見分類（自由書き回答）

日本		意見	割合
自分が原因	A-1 報復・ムカつく・嫌い	女41 男9 無記入1	51/119=43%
	A-2 同調・流されて	女27 男7	34/119=28%
	A-3 恐怖・リーダー怖い	女17 男2	19/119=16%
	A-4 からかい・遊び・楽しい	女8 男2	10/119=8%
	A-5 負けたくない・うらやましい	女5 男0	5/119=4%
	A-6 誤解・コミュ不足	女0 男0	0/119=0%
相手が原因	B-1 自己中・調子づく・行動ダメ	女21 男11	32/58=55%
	B-2 性格・ぶりっ子・態度	女6 男4	10/58=17%
	B-3 外見	女8 男2	10/58=17%
	B-4 性格の不一致	女3 男0	3/58=5%
	B-5 友人をいじめた	女1 男1	2/58=3%
	B-6 誤解	女0 男1	1/58=2%
それ以外の原因	C-1 状況・環境	女5 男0	5/28=18%
	C-2 異性問題	女4 男1	5/28=18%
	C-3 順番	女4 男0	4/28=14%
	C-4 その他・DK	女9 男5	14/28=50%

（総意見数　205）

アメリカ		意見	割合
自分が原因	A-1 報復・自己顕示・嫌い	女18 男18	36/75=48%
	A-2 同調	女10 男6	16/75=21%
	A-3 恐怖・リーダー怖い	女0 男0	0/75=0%
	A-4 面白い・冗談・からかい	女4 男8 無記入1	13/75=17%
	A-5 嫉妬・ねたみ	女3 男1 無記入2	6/75=8%
	A-6 無意識・コミュ不足	女0 男4	4/75=5%
相手が原因	B-1 イラつかせる・反撃しない・怒らせる	女16 男14	30/65=46%
	B-2 ナイーブ・弱い性格	女9 男12	21/65=32%
	B-3 外見	女5 男1	6/65=9%
	B-4 気が合わない	女5 男0	5/65=8%
	B-5 友人をいじめた	女2 男0	2/65=3%
	B-6 ゴシップを流した	女1 男0	1/65=2%
それ以外の原因	C-1 状況・環境	女6 男0	6/24=25%
	C-2 異性問題	女1 男0	1/24=4%
	C-3 順番	女0 男0	0/24=0%
	C-4 その他・DK	女12 男5	17/24=71%

（総意見数　164）

	中国	意見	割合
自分が原因	A-1 報復・ストレス発散・嫌い	女 49 男 11 無記入 3	63/126=50%
	A-2 皆やっていた	女 4 男 0	4/126=3%
	A-3 リーダーと一緒に	女 1 男 0	1/126=1%
	A-4 冗談・面白い・いたずら	女 33 男 11 無記入 2	46/126=37%
	A-5 ねたみ	女 8 男 0	8/126=6%
	A-6 誤解・コミュ不足	女 3 男 1	4/126=3%
相手が原因	B-1 変な行動・失礼な言葉・自己中	女 8 男 2 無記入 1	11/34=32%
	B-2 弱い性格・皆と違う	女 9 男 1 無記入 3	13/34=38%
	B-3 外見	女 0 男 0	0/34=0%
	B-4 意見・考えの相違	女 5 男 1	6/34=18%
	B-5 友人をいじめた	女 3 男 0	3/34=9%
	B-6 嫌われた	女 1 男 0	1/34=3%
それ以外の原因	C-1 状況・環境	女 14 男 1	15/30=50%
	C-2 異性問題	女 0 男 0	0/30=0%
	C-3 順番	女 0 男 0	0/30=0%
	C-4 その他・DK	女 10 男 4 無記入 1	15/30=50%

（総意見数 190）

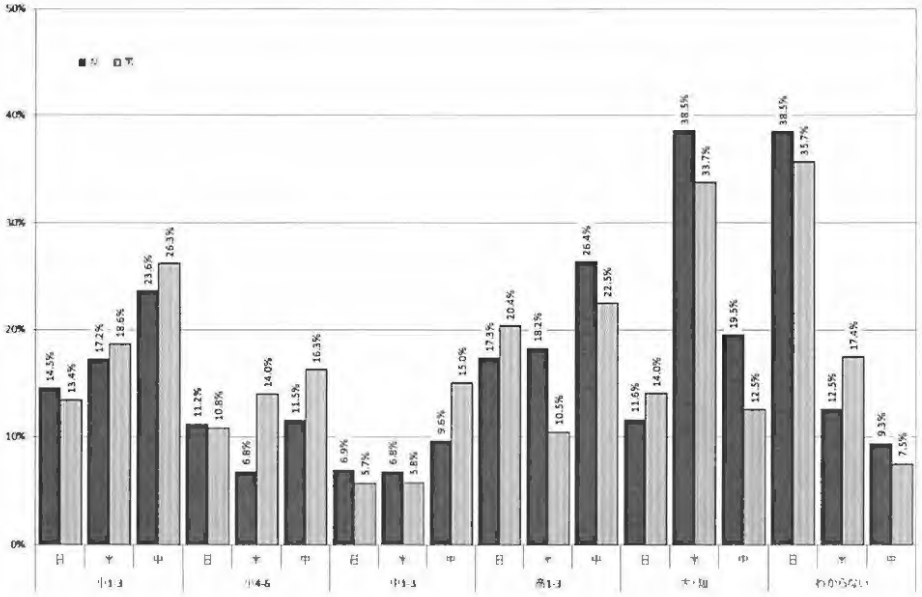
ここからは，アンケートの後半となる家族の絆（Ⅲ）についての質問である。

図 20（Ⅲ 問19）は，「家族の絆が強かった」と思う時期を質問した結果である。米国の男女は，大学・短大時期が最も家族の絆が強かった時期と回答しているが，被験者は大学・短大生であるから，現在のことを意味している。米国の大学・短大は親と離れて寮やアパートから通学している学生が多く，授業料を支払ってもらい，親からの小言を聞かずに済み，ついに自由を謳歌できるようになり，時々，メールや電話で親と話をしていて，両親に対する感謝や絆を感じるようになったのであろう。しかし，ほぼ同じような状況にある中国人学生と日本人学生に，大学・短大時期が低く出たことは驚きである。日本と中国において，小学低学年と高校時代に「家族の絆」が強く出ていることと，逆に，小学高学年と中学時代に低く出ていることは，両国の「受検勉強プレッシャー」を考えれば，理解できるであろう。

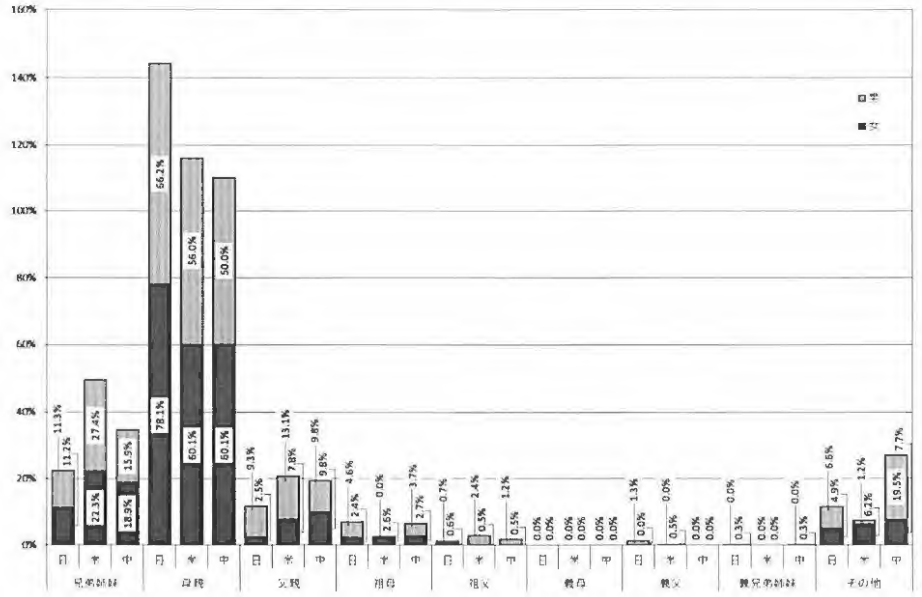
ひとつ不思議なのは，日本男女に「わからない」が最多として出たことである。これは，少なくとも二つの面から考えられる。ひとつは，自身の家族との絆が強かったことを振り返ったとき，一度もそういう時期が無かったので「わからない」と答えた。もうひとつは，家族の絆というものの意味があいまいで，答えられなかったという理由。他にも理由はあろうが，日本男女がこれ程多く「わからない」に答えたのは驚きである。

図 21（Ⅲ 問20）は，「絆が一番強かった時期に，…問題をもったとき，…相談をしたのは誰で

［図20］Ⅲ 問19. 絆が強かった時期



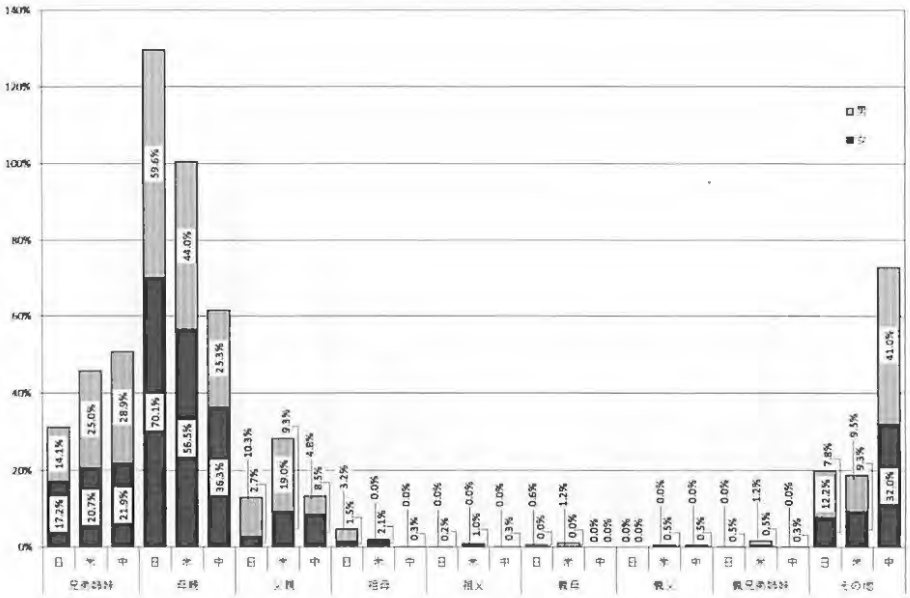
［図21］Ⅲ 問20. 問題の相談相手（絆が強かった時期）



すか」と聞いた結果である。やはり圧倒的に，3ヵ国の男女とも，母親が一番で，次がずっと低く兄弟姉妹，次が更に低く父親であった。それなりに，納得・理解できる順序であった。

図22（Ⅲ 問21）は，「最近では，…問題をもったとき…最初に相談するのは誰ですか」を聞くと，母親→兄弟姉妹→父親の順で，ほぼ図21（Ⅱ 20）と同じになった。

［図 22］Ⅲ 問21．問題の相談相手（最近）



［図 23］Ⅲ 問22．家族を結びつけるもの

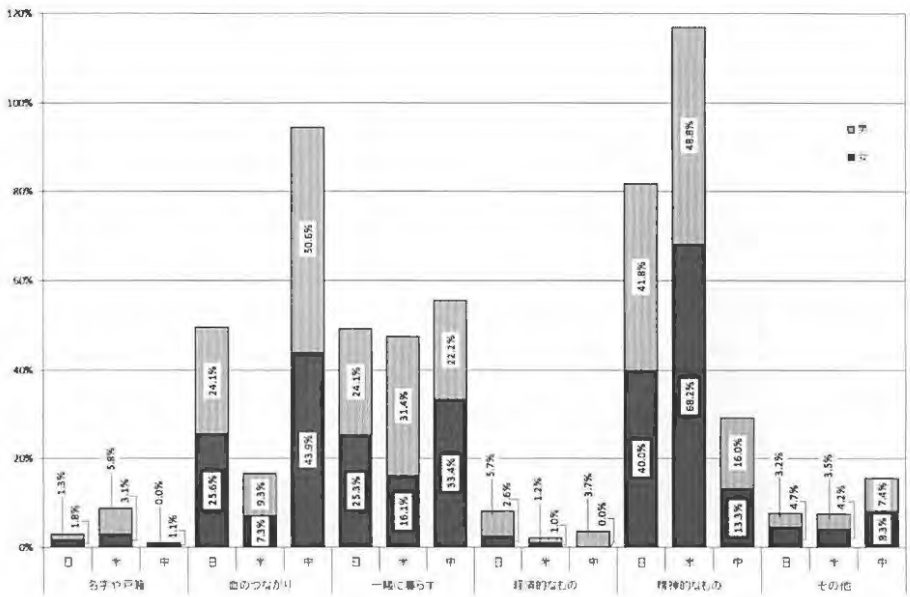


図 23（Ⅲ 問22）は，「家族を結びつけるのは，何だと」思うか，質問した。「精神的なもの」は米国男女に最も多く，次が日本男女で，中国は少なかった。これらに対し，「血のつながり」は中国男女に最も多く，次が日本男女で，アメリカは少なかった。以上は，一般的にわれわれが持つステリオ タイプに合う結果であった。一方，３ヵ国とも「一緒に暮らす」も，そこそこに多かった。

［図24］Ⅲ 問23. 家庭生活でもう少しあったほうがよいと思うこと

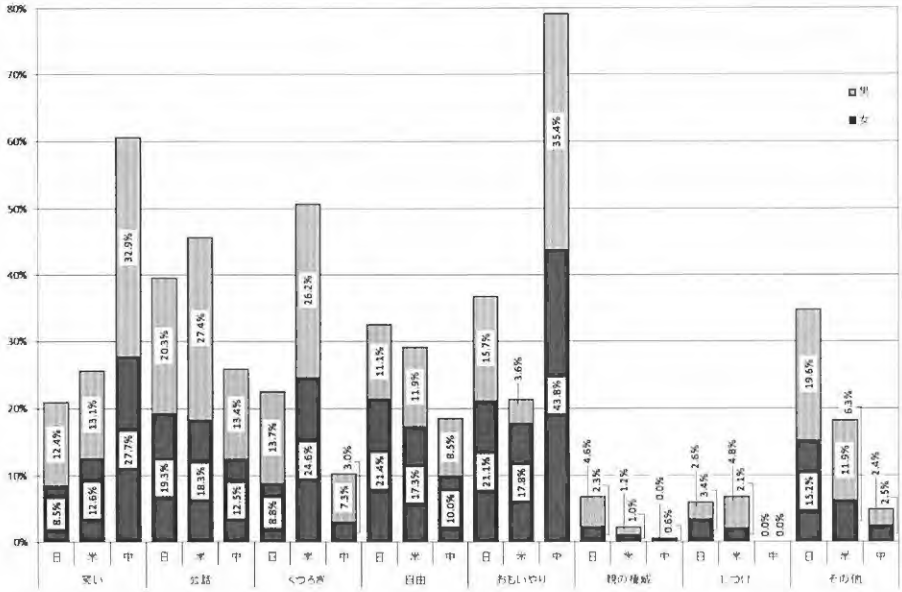


図24（Ⅲ 問23）は,「家庭生活で,もう少しあったほうがよい」と思うものを聞いた。日本は男女ともに会話とおもいやり,米国は男女ともにくつろぎと会話,中国は男女ともにおもいやりと笑いが多かった。逆に,親の権威としつけは,3ヵ国の男女とも,非常に少なかった。

［図25］Ⅲ 問24. 将来,自分の親に同居を頼むか

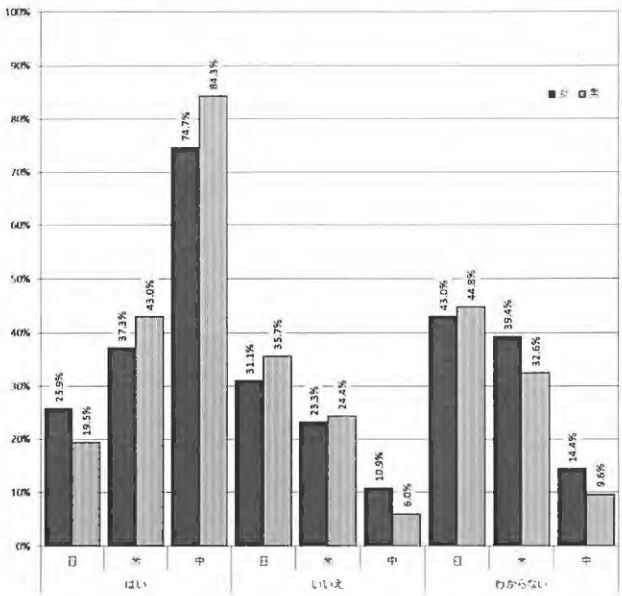


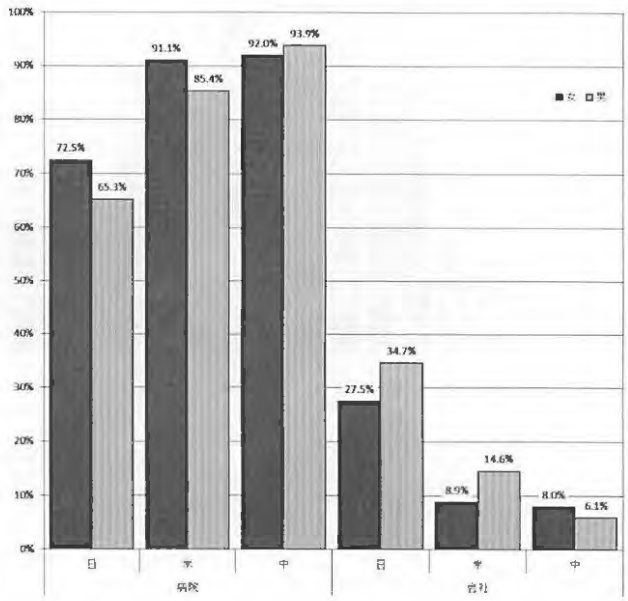
図25（Ⅲ 問24）は,もし結婚して「条件さえ許されるなら,…両親…祖父母」と,同居するかどうかを聞いた。「はい」は中国男女が圧倒的に多く,米国男女が続き,日本男女が非常に少なかった。ただし,「わからない」という答えは,日本男女,米国男女,中国男女の順に多かった。住宅事情他の理由もあるかも知れないが,日本の親子の絆が,確実に変化してきたところに原因があるようだ。

図26（Ⅲ 問25a）は,自分の親が「命にかかわる大切な手術…,その日に会社の社長の前で,自分の昇進に影響するプレゼンテーション…」があり,さて,病院か会社のどちらへ行くかという質

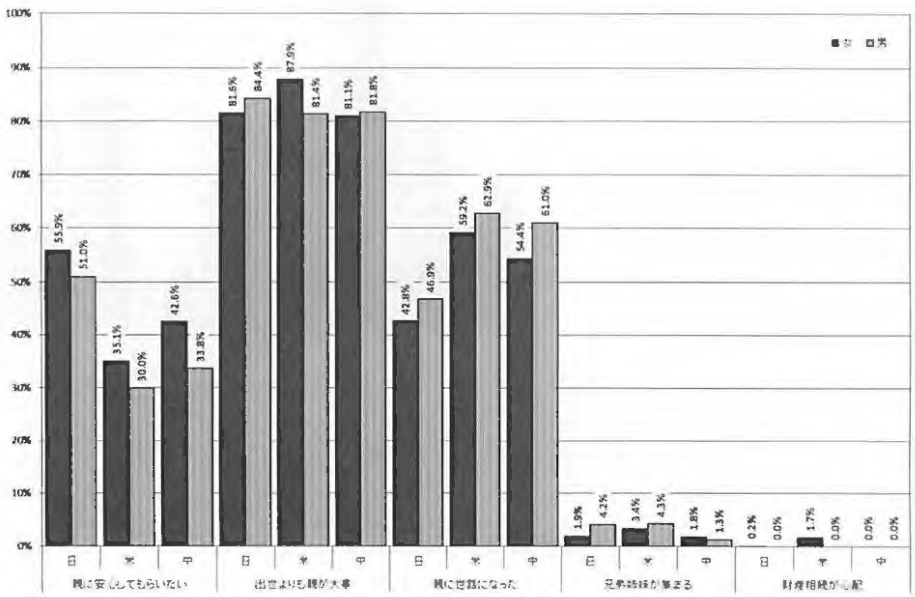
問である。1次調査と同じく，米国男女は下記に示すごとく日本男女よりずっと高い割合で病院へ駆けつける。中国男子（94%）と女子（92%）は，米国男子（85%）女子（91%）より更に高い割合で病院へ行く。特に中国男子は，米国男子より7%も高いことに留意したい。

そこで，前回の1次調査での日米のみの比較結果であるが，病院へ駆けつけるのは，日本男子61%，日本女子62.6%，米国男子84.7%，米国女子86.4%であった。つまり，日米男女4者の比較では，いずれも2次調査の方が0.7～9.9%ほど高く出ている。次に，1次調査と2次調査の男女それぞれの差をみると，1次調査では，米女と日女の差は23.8%（86.4－62.6），米男と日男の差は23.7%（84.7－61.0）であった。2次調査では，米女と日女の差は18.6%（91.1－72.5），米男と日男の差は20.1%（85.4－65.3）であった。これを男女合算した平均にすると，1次調査は23.8%［(23.8+23.7)÷2］，2次調査は19.4%［(18.6+20.1)÷2］

［図26］Ⅲ 問25a．10年後に病院 or 会社



［図27］Ⅲ 問25b．病院へ行く理由（2つ選択）



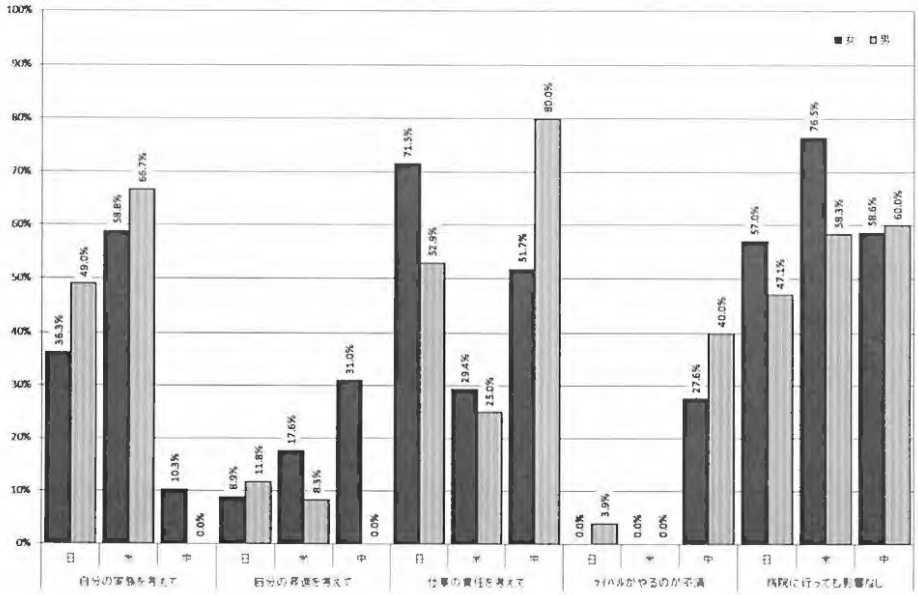
であった。つまり，2次調査の方が1次調査より，米国男女の平均と日本男女の平均との差が少し縮まるという結果となった。つまり，アメリカと日本の男女のみを考えた場合，2次調査の方が1次調査より，病院へ駆けつける割合の差は少し縮まったが，それでもアメリカの男女は，病院へ行く割合は高く，従って，1次調査と同様に「家族への思い」が強く出ている。

図27（Ⅲ 問25b）は，図26（Ⅲ 問25a）で病院へ駆けつけると答えた方々に，なぜ駆けつけるのか5つの理由の中からふたつの理由を選んでもらった結果である。「出世よりも親が大事」という理由は，3ヵ国の男女とも，高く出た。親に安心してもらいたいという理由は，日本男女に高く，親に世話になったは，米国と中国に高く出ている。

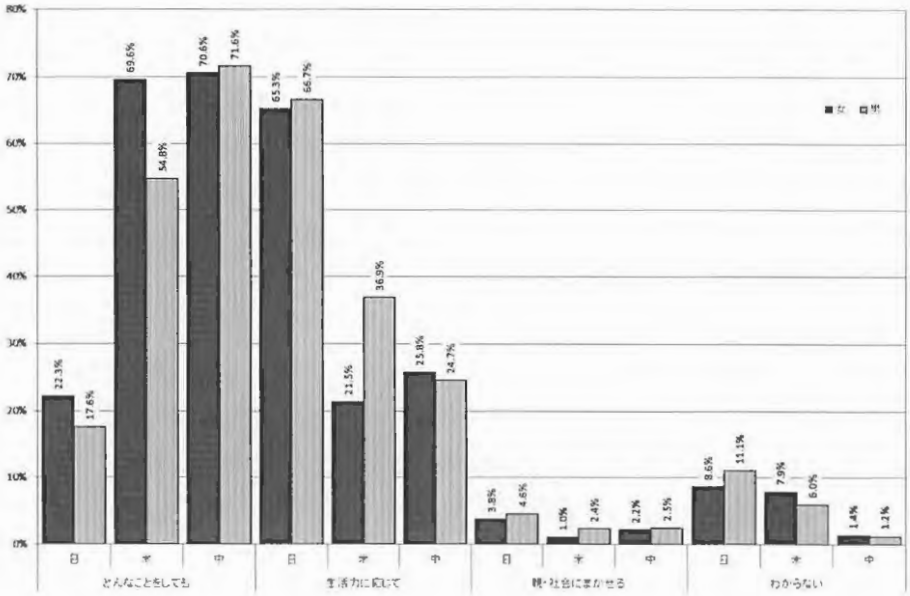
図28（Ⅲ 問25c）は，逆に，図26（Ⅲ 問25a）で会社でプレゼンをすると答えた学生たちに，5つの理由の中からふたつの理由を選んでもらった結果である。「仕事の責任を考えて」という理由は，中国と日本に強く出たが，特に中国男子と日本女子に高く出た。一方，米国男女はともにかなり低かった。病院へ行っても影響が無いは，3ヵ国男女に高く出た。自分の家族を考えての理由は，米国男女と日本男女に高く出たが，中国女性は非常に低く，中国男性に至ってはゼロであった。「自分の昇進を考えて」は，日米男女に少しずつ出たが，中国では，男子がゼロであったのに対して，女性からはかなり高く出た。中国女性に，昇進意欲が特に高いのであろうかと，考えてしまった。

図29（Ⅲ 問26）は，「年老いた親を養うこと」について質問した。どう養うのか明確でない質問であったが，「どんなことをしてでも親を養う」という理由は，米国男女と中国男女にかなり強く出た。しかし，日本男女は米・中の男女のそれぞれ3分の1以下というように非常に低かった。この点に関して少し懸念することがある。日本語の「養う」という言葉と，英語の「take care of」

［図28］Ⅲ 問25c．会社へ行く理由（2つ選択）



［図 29］Ⅲ 問26．年老いた親を養うこと



が，経済的サポートなのか，同居なのか，あるいは両方を想定させるのかが，今ひとつ明瞭でない。一方，これに対して「自分の生活力に応じて」という理由は，どちらかと言うと経済的サポートを強く想定させるのかどうか不明だが，日本男女にかなり強く出て，米国男女と中国男女には低く出た。なお，同居というと住宅事情もあるわけで，日本男女に低く出ても理解できるのであろうか。

図 30（Ⅲ 問27a）は，わたしどもの新理論の質問項目であるが，残念ながらまだ分析が終了していないので，ここでは割愛させてもらうことにする。

［図 32］Ⅳ 問28．性別

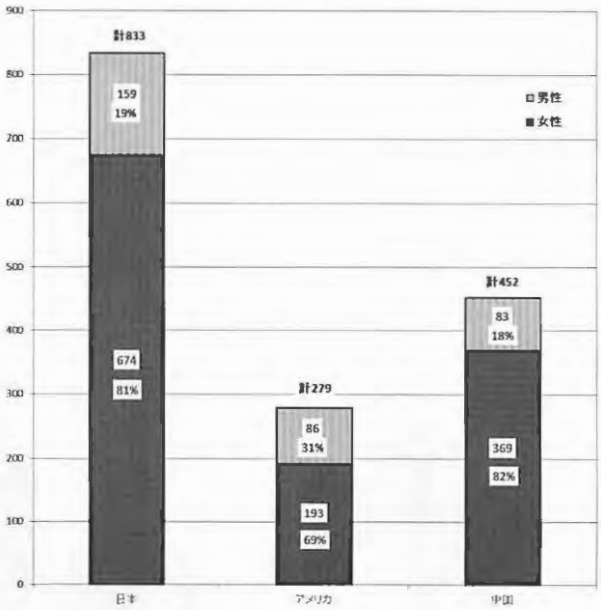
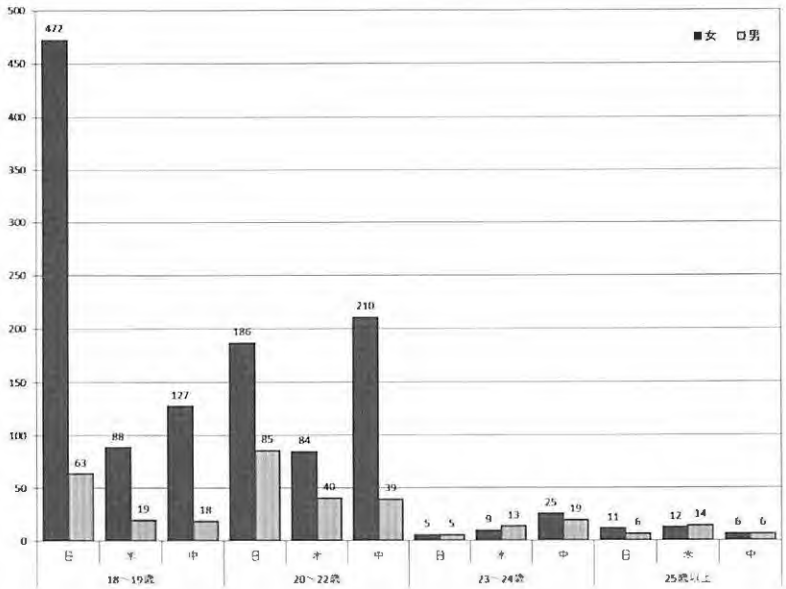


図 31（Ⅲ 問27b）は，新理論のもうひとつの集計であるが，残念ながら分析が終了していないので，ここではやはり割愛させてもらう。

これ以降の質問項目は，個人の特性・自己分析（Ⅳ）となる。

［図33］Ⅳ 問29．年齢



［図34］Ⅳ 問30．国籍

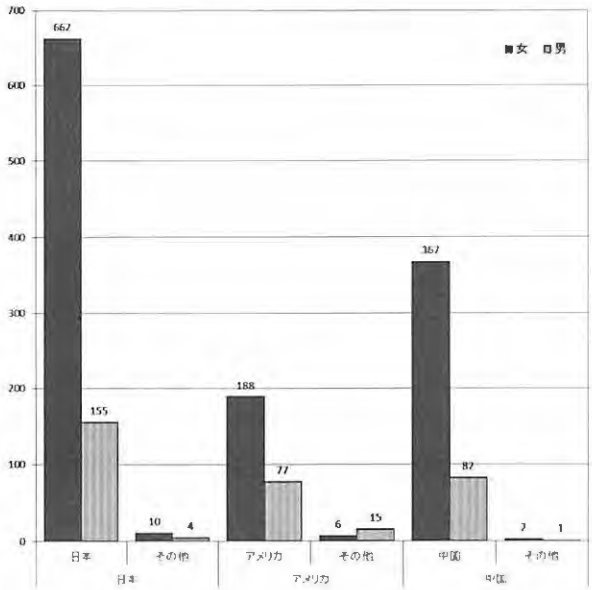


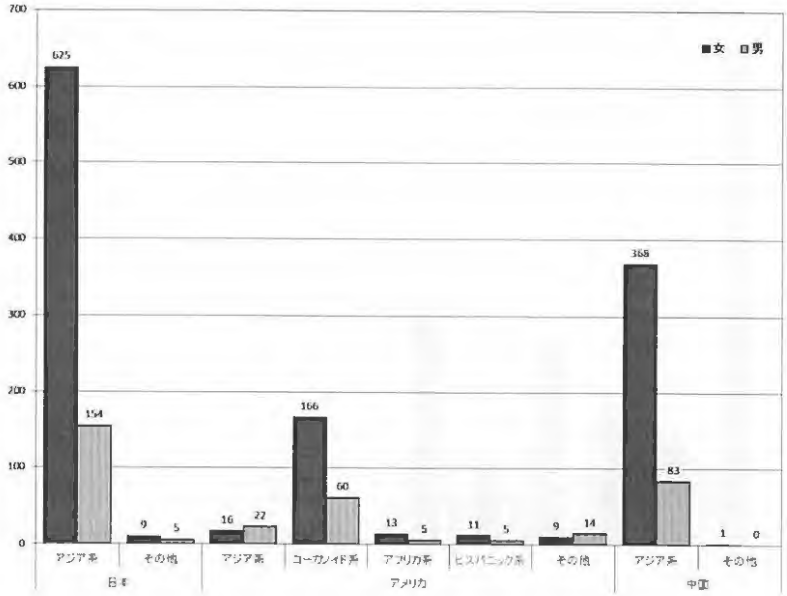
図32（Ⅳ 問28）は，性別に回答してくれた学生のみの計1,565名のジェンダー結果である。1次調査同様に，3ヵ国とも女子が圧倒的に多かった。特に女性が多かった日本と中国が，男対女の割合で，それぞれ19：81と18：82で，不思議にほぼ同じ割合いであった。これに対してアメリカの男女比は，31：69であった。アメリカと中国男子の数が少なかったことは，当該調査の問題点であった。

図33（Ⅳ 問29）は，被験者の年齢であるが，3ヵ国とも大学生が対象なので，18～22歳が圧倒的に多かった。しかし，中国男女に限っては，23～24歳も少しいた。25歳以上は，米国に少しではあるがいた。

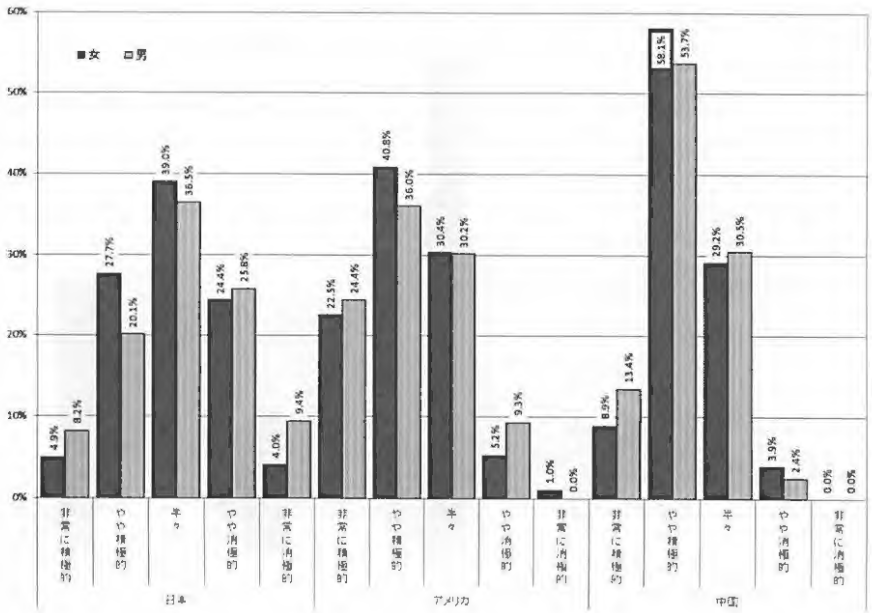
図34（Ⅳ 問30）は，国籍を聞いた結果である。アメリカと日本で回収されたアンケートの中に外国人留学生が少しいた。中国に，外国人留学生がほとんどいなかったことは不思議である。

図35（Ⅳ 問31）は，民族的背景を聞いた結果である。1次調査の中にこの質問がなく，調査仲

［図 35］Ⅳ 問31. 民族的背景



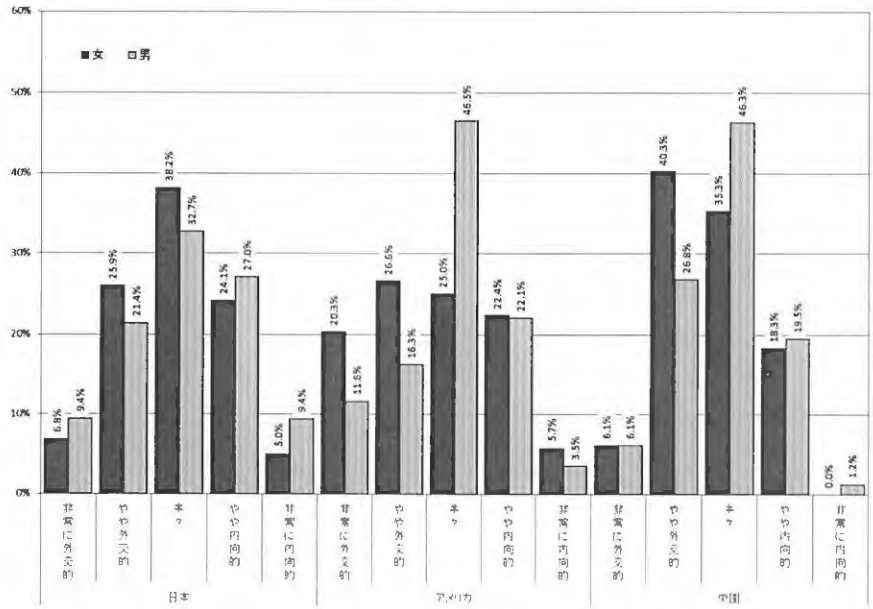
［図 36］Ⅳ 問32a. 自分の性格（積極的⇔消極的）



間から聞くべきという意見があり，２次調査に入れることにした。最もバラエティーに富む米国であるが，コーカソイド系が最多であるが，日系とアフリカ系とヒスパニック系がそこそこにいたことが判明する。

図 36（Ⅳ 問32a）は，被験者に自身が積極的か消極的かの性格を，５段階で聞いた結果である。

［図37］Ⅳ 問32b. 自分の性格（外交的⇔内向的）



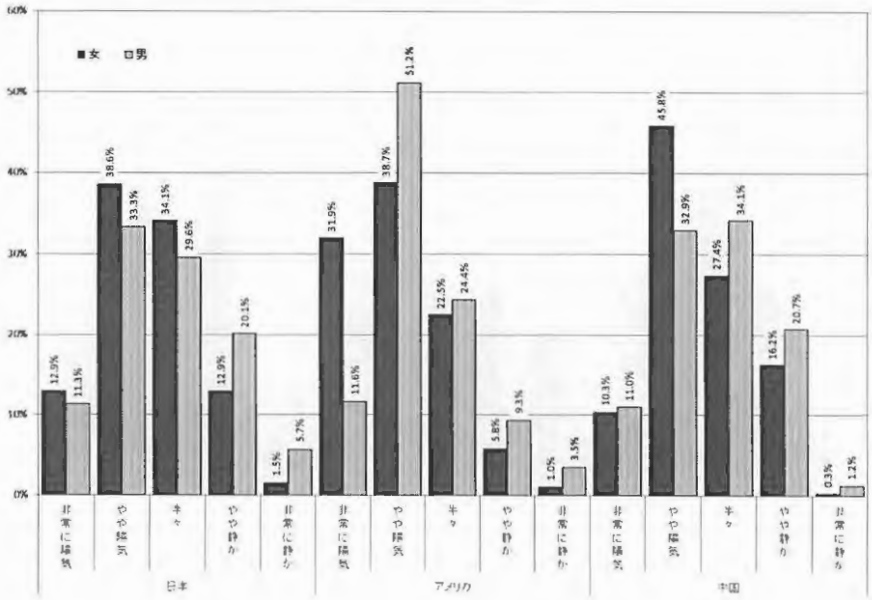
それぞれの国のトップ2を順に列記すると，日本は「半々」と「やや消極的」，米国は「やや積極的」と「半々」，中国は「やや積極的」と「半々」であった。特に中国男女が「やや積極的」に，米国よりずっと多く回答していることに驚いた。

図37（Ⅳ 問32b）は，被験者に自身が外交的か内向的かの性格を，5段階で聞いた結果である。それぞれの国のトップ2を順に列記すると，日本は「半々」と「やや内向的」，米国は「半々」と「やや内向的」，中国は「半々」と「やや外交的」であった。非常に驚いたことに，「やや外交的」が日本と米国で共に5段階のうち3番目に多かった事である。普通に考えれば，アメリカ人学生の方が日本人学生に比べずっと外交的と思えるが，セルフイメージではそれほどに違いないということにビックリした。あくまでも，自分と友人との比較に対する自身の認識だからであろうか。

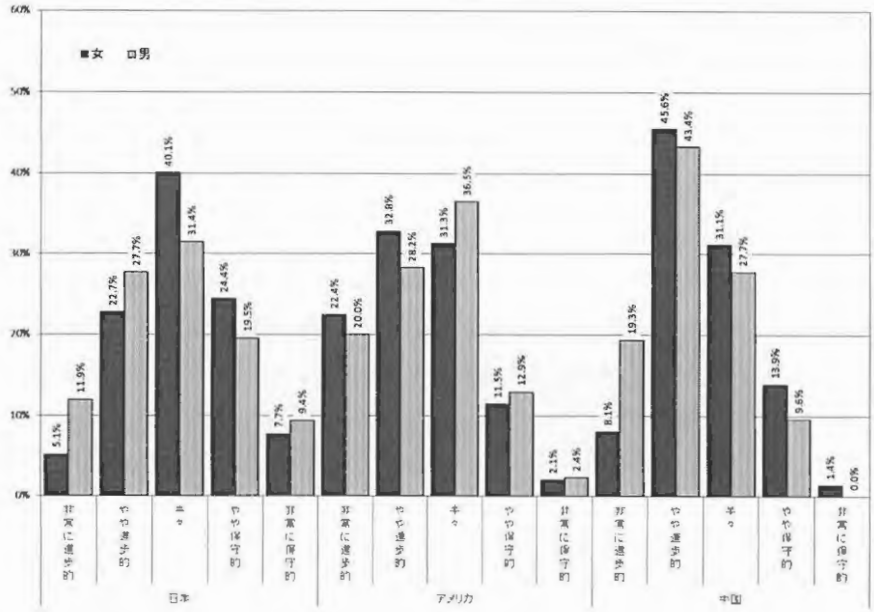
図38（Ⅳ 問32c）は，被験者自身が陽気か静かであるかの，自己判断を聞いた結果である。それぞれの国のトップ2を順に列記すると，日・米・中3ヵ国とも，「やや陽気」と「半々」であった。しかし，それぞれの学生たちの程度（割合）をみると，アメリカが少し陽気で，中国と日本がほぼ同じくらいで続いている。

図39（Ⅳ 問32d）は，被験者自身が進歩的か保守的であるかの性格を，聞いた結果である。それぞれの図のトップ2を順に列記すると，日本と米国が「半々」と「やや進歩的」であったが，中国だけは「やや進歩的」と「半々」であった。中国は国自体が大変な変革を経験しているときで，セルフイメージに「やや進歩的」が多いことに理解できる。日本と米国とを比較すると，日本は「やや保守的」と「非常に保守的」が米国よりかなり多く出ていることに注目した。英語のconservativeに対して，アメリカ人学生のネガティブ イメージがあるのに反して，日本人学生は

［図 38］Ⅳ 問32c．自分の性格（陽気⇔静か）



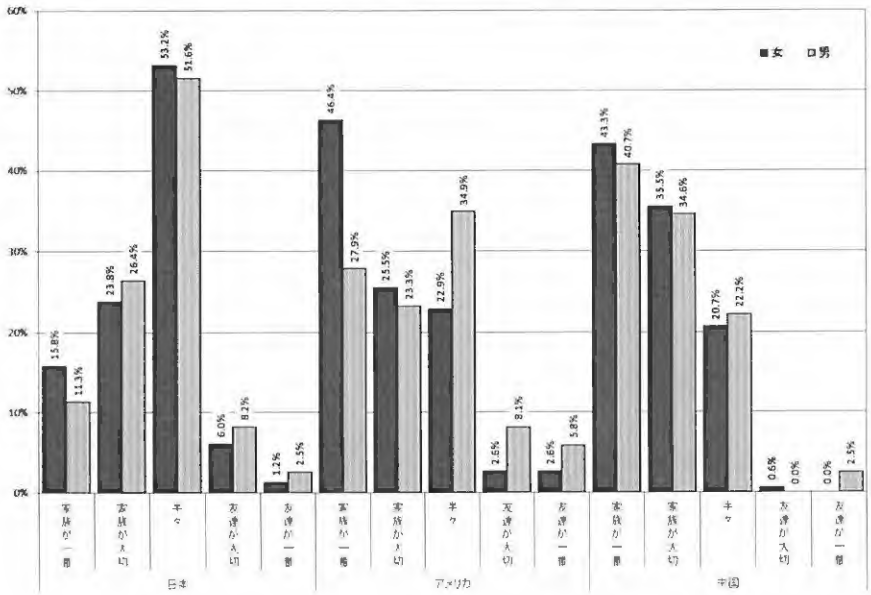
［図 39］Ⅳ 問32d．自分の性格（進歩的⇔保守的）



保守的という言葉をそれほどネガティブに思わないことが影響しているのであろうか。

図 40（Ⅳ 問32e）は，家族と友達の大切さの比較を聞いた結果である。それぞれのトップ２を順に列記すると，日本は「半々」と「家族が大切」であったが，米国が「家族が一番」と「半々」，

［図40］Ⅳ 問32e. 自分の性格（家族⇔友達）



中国は「家族が一番」と「家族が大切」であった。ここから3ヵ国の学生たちによる家族の重要性を考えると，中国が一番，ほんの少し離れて米国が二番，少し離れて最後が日本となる。

Ⅳ　結語

ここでは，考察とまとめは省略させてもらう。本稿は，途中経過の報告のみだけと，理解してもらいたい。

謝辞

当該研究は，共立女子大学総合文化研究所の海外共同プロジェクトとして，2010年4月より2015年3月まで研究助成を受けた。並びに，統計数理研究所の一般研究2として助成（22－共研－2028，23－共研－2024，24－共研－2029）も受けた。両研究所からの支援がなければ，この調査の実施は不可能であったわけで，両研究所に対して心より感謝する次第である。元助手渡邉朋子氏，元助手吉田浩美氏，現助手伊佐清花氏に，データ整理，ワープロ打ち等で大変にお世話になった。3名の助手の方々にも，感謝の気持ちで一杯である。

参考文献

植木武・石橋義永・吉野諒三・J. Torquati・R. Tamashiro・R. Edmondson・張正軍
2014『日・米・中におけるいじめ比較―自由書き集計―』日本行動計量学会 第42回大会抄録集．pp. 212-5.

東北大学.

植木武・山森芳郎・石橋義永・吉野諒三・E. Wethington・Q. Wang.・R. Edmondson

2010『シンポジウム　日米国際比較による家族の絆といじめ問題』全68頁。共立女子大学総合文化研究所主催。(日・英両語)。

2011「日米国際比較にみる家族への絆—大学生から見た家族への思い」『共立女子大学総合文化研究所紀要』17：101-40. 共立女子大学総合文化研究所。

菅野純・桂川泰典（編）

2012『いじめ予防と対応』東京：明治図書出版。

向山洋一

1991『いじめの構造を破壊せよ』東京：明治図書出版。

森口良

2007『いじめの構造』東京：新潮社。

山脇由貴子

2006『教室の悪魔』東京：株式会社ポプラ社。

2012『震える学校』東京：株式会社ポプラ社。

いじめ・家族の絆に対する アンケート調査

- 日本・アメリカ・中国の大学生を対象に、このアンケート用紙を作りました。
- これは無記名のアンケートなので、名前を書く必要はありません。
- 回答したくない質問があれば、回答しなくても構いません。
- 回答した上で、もし、このアンケート用紙を提出したくないと思ったら、提出しなくても結構です。
- なお、このアンケート調査についてご質問がありましたら、下記の住所へお問い合わせ下さい。

〒101-8437
東京都千代田区一ツ橋２－２－１
共立女子短期大学
植木　武（研究代表）

答え方：　最も適当と思われる答えの番号・記号に○をして下さい。
（ _____の箇所には、適当な言葉や文を書いて下さい。）

はじめに、いじめに関する質問をいたします。

Ⅰ いじめられた経験

1．あなたは今までに、個人あるいはグループによりいじめられたことがありますか（１か２どちらか一つに○）。もし、いじめられたことがあるなら、それはいつのことですか（a～f に複数○可能）。

1．ありません →問11へ
2．はい、あります →
a　小学校１～３年生　　b　小学校４～６年生
c　中学校１～３年生　　d　高等学校１～３年生
e　専門学校・短大・大学生　　f　いつかわからない

問１を「２．はい、あります」と答えた方は、そのまま続けて下さい。
「１．ありません」と答えた方は、問11へ飛んで下さい。

2．一番ひどいいじめを受けたのは、いつごろですか（一つ選んで○）。
1．小学校１～３年生　　2．小学校４～６年生
3．中学校１～３年生　　4．高等学校１～３年生
5．専門学校・短大・大学生　　6．いつかわからない

3．最悪のいじめを受けたとき、どのようないじめでしたか（一つ選んで○）。
1．言葉によるおどし　　2．身体的暴力
3．ネットいじめ（パソコン、携帯等）　　4．誹謗中傷した
5．仲間はずれ or 無視　　6．秘密を暴露した
7．持ち物を隠す or 傷つける　　8．パシリにした
9．金・物を要求した　　10．性的暴力
11．木棒・チェーン・刃物等で脅した　　12．その他 _____

4．誰によって最悪のいじめを受けましたか（一つ選んで○）。
1．親／両親　　2．兄弟・姉妹　　3．先生
4．級友　　5．その他 _____

5．その最悪のいじめをした人（々）は、あなたと、１～３（一つ選んで○）。
1．同性です　　2．異性です　　3．両方です

6．一番ひどいいじめを受けたとき、あなたはどう思いましたか（一つ選んで○）。

1．大して辛くなかった →問8へ　　2．辛かった →問8へ

3．非常に辛かった →問8へ　　4．我慢できなく、死にたく思った →問7へ

7．上問6の「4．我慢できなく、死にたく思った」に○をした方のみにお聞きします（1～3に○をした方は、問8へ飛んで下さい）。

そのいじめを受けたとき、なぜ、死にたく思ったのですか（複数○可能）。

1．非常に悲しかったから

2．非常に辛かったから

3．嫌われていると思ったから

4．自分は必要とされていないと思ったから

5．自分が死ねば、相手が責任を問われると思ったから

6．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

8．そのいじめを受けたとき、最初に誰に相談しましたか（一つ選んで○）。

1．親／両親　　2．兄弟・姉妹　　3．先生

4．友人　　5．その他 ＿＿＿＿＿＿　　6．相談しなかった

9．いじめられた後、あなたとその人（or グループ）との関係はどうなりましたか（一つ選んで○）。

1．後に和解した　　2．その後、口を利いていない

3．その後、会っていない　　4．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

10．最悪のいじめを受けたときのことを聞きますが、なぜ、あなたはいじめられたと考えていますか。思いつく理由を、いくつか書いて下さい。

1．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

5．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ⅱ いじめた経験

11．あなたは、今までに他人をいじめたことがありますか（一つ選んで○）。

1．はい　　2．いいえ →問19へ

問11を「1．はい」と答えた方は、そのまま続けて下さい。 「2．いいえ」と答えた方は、問19へ飛んで下さい。

12. 最もひどいいじめをしたとき、どんないじめをしましたか（一つ選んで○）。

1．言葉によるおどし　　2．身体的暴力
3．ネットいじめ（パソコン、携帯等）　　4．誹謗中傷した
5．仲間はずれ or 無視　　6．秘密を暴露した
7．持ち物を隠す or 傷つける　　8．パシリにした
9．金・物を要求した　　10．性的暴力
11．木棒・チェーン・刃物等で脅した　　12．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

13. この一番ひどいいじめをしたのは、あなたがいつのことでしたか（一つ選んで○）。

1．小学校１～３年生　　2．小学校４～６年生
3．中学校１～３年生　　4．高等学校１～３年生
5．専門学校・短大・大学生　　6．いつかわからない

14. 誰をいじめましたか（一つ選んで○）。

1．親／両親　　2．兄弟・姉妹　　3．先生
4．級友　　5．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

15. あなたが一番ひどいいじめをした相手は、あなたと、１～３（一つ選んで○）。

1．同性です　　2．異性です　　3．両方です

16. 一番ひどいいじめをした後で、あなたはどう思いましたか（一つ選んで○）。

1．非常に恥ずかしく思った　　2．少し恥ずかしく思った
3．何も感じなかった　　4．気持ち良かった
5．とても気持ち良かった　　6．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

17. 一番ひどいいじめをしたとき、あなたはそれを「いじめ」と自覚していましたか、それとも、「ふざけ」と思っていましたか。当時の自分の気持ちに一番近い番号を一つ選んで○をして下さい。

1	2	3	4	5
ふざけ (100%)	ふざけ (75%)	半々 (50%)	いじめ (75%)	いじめ (100%)

18. 一番ひどいいじめをしたときのことを聞きますが、あなたはなぜその人（or グループ）をいじめたのですか。思いつく理由を、いくつか書いて下さい。

1．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
2．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
3．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
4．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
5．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ここからは、あなたのご家族について質問いたします。

19. 小学校時代から現在までの中で、あなたが一番「家族の絆が強かった」と思う時期はいつですか（一つ選んで○）。

1．小学校１～３年生　　2．小学校４～６年生
3．中学校１～３年生　　4．高等学校１～３年生
5．専門学校・短大・大学生　　6．いつかわからない

20. 家族の絆が一番強かった時期に、あなたは問題をもったとき、家族の中で最初に相談をしたのは誰ですか（一つ選んで○）。

1．兄弟／姉妹（たち）　　2．母親
3．父親　　4．祖母
5．祖父　　6．義母
7．義父　　8．義母／義父が連れてきた義理の兄弟／姉妹（たち）
9．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

21. 最近では、あなたは問題をもったとき、家族の中で最初に相談をするのは誰ですか（一つ選んで○）。

1．兄弟／姉妹（たち）　　2．母親
3．父親　　4．祖母
5．祖父　　6．義母
7．義父　　8．義母／義父が連れてきた義理の兄弟／姉妹（たち）
9．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

22. 家族を結びつけているものは、何だと思いますか（一つ選んで○）。

1．名字や戸籍　　2．血のつながり
3．一緒に暮らすこと　　4．経済的なもの
5．精神的なもの　　6．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

23. あなたが、ふだんの家庭生活で、もう少しあったほうがよいと思うのはどんなことでしょうか（一つ選んで○）。

1．笑い　　2．会話　　3．くつろぎ
4．自由　　5．おもいやり　　6．親の権威
7．しつけ　　8．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

24. 将来、あなたとあなたのパートナーが家庭を築いた際、もし、条件（部屋とか経済的理由）さえ許されるなら、あなたは、年老いたあなたの両親、あるいは祖父母に対して、同居することを頼むでしょうか（一つ選んで○）。

１．はい　　２．いいえ　　３．わからない

25. 今から 10 年後に、以下のようなことが起ったと仮定して下さい。

> **自分の母 or 父が、命にかかわる大きな手術をすることになりました。たまたまその日に、会社の社長の前で、自分の昇進に影響するプレゼンテーションをやらねばなりません。そこであなたは、病院へ駆けつけるか、会社でプレゼンテーションをするか悩みます。**

1 or 2 どちらか一つを選んで○をし、その理由を下の選択肢ａ～ｅから二つ選んで下さい。

１．病院に駆けつける

↓

あなたの考えに近い理由を下の選択肢ａ～ｅより二つ選んで○をして下さい。

病院に駆けつける理由

ａ．親に安心して手術を受けてもらいたいので、病院へ行く

ｂ．出世よりも親の方が大事なので病院を優先する

ｃ．親には子供の頃に世話になっているので、ついていたい

ｄ．兄弟・姉妹が集まるだろうし、自分も行かなければならない

ｅ．行かないと、財産相続のときに他の兄弟・姉妹と比べ不利になるのが心配

２．会社でプレゼンテーションを行う

↓

あなたの考えに近い理由を下の選択肢ａ～ｅより二つ選んで○をして下さい。

会社でプレゼンをする理由

ａ．パートナー（配偶者）や子供のことを考えれば、プレゼンもいたしかたない

ｂ．自分の昇進を考えれば、プレゼンもやらねばならない

ｃ．仕事の責任を考えれば、プレゼンを逃げる訳にはいかない

ｄ．自分がやらなければライバルがやるので、それは我慢できない

ｅ．自分が病院に行っても手術の成功・不成功には影響しないので、プレゼンを優先する

26. あなたは、年老いた親を養うことについてどのように思いますか。この中からあなたの考えに最も近いものを、一つだけ選んで○をして下さい。

１．どんなことをしてでも親を養う　　２．自分の生活力に応じて親を養う

３．親自身の力や社会保障にまかせる　　４．わからない

27. あなたのご両親（養父母を含めても良い）についてお聞きします。あなたのご両親（おひとりでも良い）は、この1年間に、あなたのおじいさん、あるいは、おばあさん（or 二人一緒）を訪問したでしょうか。本日からさかのぼって、365 日以内のことを聞いています（一つ選んで○）。

1．はい　　2．いいえ　　3．知りません →問28へ

行かなかった理由（一つ選んで○）

1．祖父母と同居、あるいは近所に住んでいるため
2．祖父母は他界しているため
3．仕事などで予定が合わなくて
4．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿

以下の質問A～Dにも答えて下さい。□には数字を記入（時間は1回の訪問にかかる平均時間）、選択肢は一つ選んで○をして下さい。

A．私の親（or 両親）は、私の**父方**のおじいさん／おばあさんを、この1年間以内に□回訪問しました。かかった時間は片道□時間□分です。

主な交通手段（一つ選んで○）

1．徒歩　2．自転車　3．車（自家用車・タクシー・レンタカーなど）
4．列車　5．バス　6．飛行機　7．その他 ＿＿＿＿＿＿

B．私の親（or 両親）は、私の**母方**のおじいさん／おばあさんを、この1年間以内に□回訪問しました。かかった時間は片道□時間□分です。

主な交通手段（一つ選んで○）

1．徒歩　2．自転車　3．車（自家用車・タクシー・レンタカーなど）
4．列車　5．バス　6．飛行機　7．その他 ＿＿＿＿＿＿

C．私の**父方**のおじいさん／おばあさんは、私たちの家族を、この1年間以内に□回訪問してくれました。かかった時間は片道□時間□分です。

主な交通手段（一つ選んで○）

1．徒歩　2．自転車　3．車（自家用車・タクシー・レンタカーなど）
4．列車　5．バス　6．飛行機　7．その他 ＿＿＿＿＿＿

D．私の**母方**のおじいさん／おばあさんは、私たちの家族を、この1年間以内に□回訪問してくれました。かかった時間は片道□時間□分です。

主な交通手段（一つ選んで○）

1．徒歩　2．自転車　3．車（自家用車・タクシー・レンタカーなど）
4．列車　5．バス　6．飛行機　7．その他 ＿＿＿＿＿＿

最後に、あなた自身のことについて質問いたします。

28. あなたの性別

1．女性　　2．男性

29. 年齢はおいくつですか

1．18～19歳　　2．20～22歳
3．23～24歳　　4．25歳以上

30. あなたの国籍はどこですか（二つ以上ある場合は、○をつけるか、すべて書いて下さい）。

1．日 本　　2．アメリカ合衆国　　3．中 国
4．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

31. あなたの民族的背景について質問します（二つ以上ある場合は、○をつけるか、すべて書いて下さい）。

1．アジア系　　2．コーカソイド系（白人）
3．アフリカ系　　4．ヒスパニック系
5．ネイティブ　アメリカン　　6．パシフィック諸島系
7．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

32. 下記Ａ～Ｅの項目で、自分の性格に一番近いもの（１～５）を一つ選んで○をして下さい。

自分の性格は…

	1	2	3	4	5
A	非常に積極的	やや積極的	半 々	やや消極的	非常に消極的
B	非常に外向的	やや外向的	半 々	やや内向的	非常に内向的
C	非常に陽気	やや陽気	半 々	やや静か	非常に静か
D	非常に進歩的（変革を好む）	やや進歩的	半 々	やや保守的	非常に保守的（現状維持を好む）
E	家族が一番大切	家族が大切	半 々	友達が大切	友達が一番大切